明治四十三年十二月一日第三種郵便物認可（毎月一回）
明治二十一年二月二十八日内務省許可（廿日發行）

大正三年十月二十日發行

婦人衛生雜誌

第二百九十九號

婦人衛生雜誌

第二百九十九號目次

大日本婦人衛生會

十一月例會通知

來る十一月七日(第一土曜日)午後一時より神田區一ツ橋通り共立女子職業學校内に於て本會例會相開き左の講話有之候間萬障御繰合せ御來會被下度候

例に依り御婦人に限り御知友御同伴不苦候事

一、開戰前後に於ける歐羅巴の消息

醫學士　芳我石雄

大正三年十月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるもの、如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し尙之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敘べて廣く江湖の諸賢姉に告げ其贊成を仰ふぐこととしかり

明治二十年十一月

首唱者　總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を增進するにあり

●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く

●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし

●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす

●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし

●第七條　會員は本會に於て每月發刊する雜誌を無料にて受ることを得

●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず

●第九條　本會に推薦員を置き其中より總裁一名を仰ぎ皇族の妃殿下に願出るゝのとす

●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員三十名、書記若干名

●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託するとあるべし

●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄庶務を掌る幹事の分課を設け第一會計第二編輯出版、第三庶務とす

●第十三條　臨時指名委員の件

●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す

●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す

●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす例會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし

●第十七條　每會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を聽就し會員をして隨意筆記せしむるものとす

●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）

●第十九條　講義演說等は雜誌の爲め禁す

●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと

●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし

●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす

●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會

●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得

●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす

●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得

●第廿八條　本會の雜誌は支會に發送すべきを以て其費額を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を講求する者に就きても亦同じ

●第廿九條　支會は毎會の都度其狀況を本會に報告すべし

●雜件

第三十條　本會は每月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし

●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄附する者あるときは本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を贈冊に登錄し尙本會雜誌を以て報告すべし

●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送發として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）

●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし振替にて口座番號東京一○六○○番本會事務所宛に採出しあるべし

●第卅四條　會員中若し本會の妨碍となるべき所爲ある者又は屢く會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目廿二番地　私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌第二百九十九號

（大正三年十月二十日發行）



時局と心理

高島平三郎

今日は總裁宮殿下御臺臨の御前に於きまして一場の講演を致しますることは衷心から私の光榮と存ずる次第でございます、殊に唯今莊司さんから御述べのやうに人を饅頭に譬へまするど餡の方は心で皮の方は身體でありまして、私はその甘い方の心のお話にあてゝ下さいましたゆゑ此點も殊に喜んで居ることであります。併是は自分が食べるのではなく、皆樣の御耳に入れる事でありますから甘いかどうかよく解りませぬが何方にしても私は實の方で片山先生は皮の方では少し御氣の毒でありますが先づ心の健康に及ぼす狀態等に就いて時局と聯關して御話致します。

一體人間は皆樣も御承知の如くずつと前から段々と引續いて發達して參り今日のやうな文明の結果を得たのでありまして、決して初から今日の如き進歩をして居た譯ではありませぬ。

是は歷史を見れば能く解る事でありますが、歷史が始まつたのは餘り古くはない事でありまして學者の說に據りますと人間が此世中に生じてから少くとも二十萬年以上の年月を經て居るといふことでありますが、其中で歷史の遡つて居る度は纔か四千年か五千年位に過ぎませんが、其歷史在つてから後さへも人は驚くべき進歩をして居ります。

それですから歷史以前からの事を考へますれば人の初から進んで來たことは殆んど量り知る事が出來な

いほどであります。この間の有様を學問の道を辿つて研究して見ますと詰り人も一種の動物で抵抗力を有つて居て、種々外界から來るところの刺戟に對してそれに抵抗して行き抵抗が仕切れなくなると終には自分の方が外界に調節して行きこれに由つてよく生存し發展してゆくのであります。例へば寒さが此處で此儘に強くなると此中で寒さに耐へ得る事の出來る人と之に堪へる事の出來ない人とがある。此堪へ得る事の出來ない人は果てゝ仕舞うが耐る事の出來る人は異狀なく生存を保つことが出來ます。是が永續して居ると寒さに調節の出來る人間のみが生れて來ますから強い寒さの外界にも立派に耐へ得るやうになるのであります。かやうに人は或程度迄は外界に抵抗して行き其後は調節して行きその働のよく出來るものが世の中で段々と重要の位地を占めるのであります。かう云ふ事の働きは何に依るかと云ふと心であります。決して身體ばかりでは外界によく抵抗することも調節することも出來ません。つまり人は心が發達して居るから寒ければ寒い樣に暑ければ暑い樣に程々に之を測つて自分に適するやうにして行くことが出來るのでございます。かく人の心の進で來るには種々の失敗をなし澤山の人が其犧牲になつて居るのでありまして、吾々は其餘德に由つて重要の位地を占め、文明國を形造る樣に成つて參つたのであります。

それですから人間もずつと初に遡つて見ますと恰度水の中に居る下等の動物所謂水棲類の樣なものであつたのです。かう云ふ時代を經過して兩棲類卽ち龜であるとか蟹であるとかと云ふ動物の樣な階級を經更に其時代を經過して猿の樣に木に棲んで居る所謂樹棲類の樣な者になり、さう云ふ時代を經過して初めて人の形を具へるやうになつたのです。それからも先きに申した如く野蠻時代半開時代を經て終に今日の如き文明の時代と成つて來たのであります。夫を調べて見ますと其證據が現はれて參ります。人間の身體の構造でも母の胎内に居ります時代には恰

度魚の如く水を呑んだり吐いたりする事の出來るやうに鰓のある時代があります。其次になると兩棲類の動物のやうに尾のある時代があります。又生れてからも猿の樣に立つて歩るく事が出來ないで恰度木に攀ぢるに都合のよいやうに脚の狀態になつて居る時代があります。かくして暫くすると獸の如く四つ這になり更に立つて歩く樣になるのであります。

又心の働にしましても子供は初の間は何んにも分らずに亂暴な事をして誠に困る事があります。是れは恰度開けない人間と同じ樣なやり方で、男子でも女子でも七八歲の時代はよく暴れる時代であります。其時代を經て少年少女時期に入れば先づ半開位の時代でありますが段々年を取つて靑年になりますと種々の文明に接觸して音樂であるとか美術であるとか宗教であるとか云ふ樣な事を味ふ事が出來るのであります。

若しも社會が半開であるならばその社會に生れる子供は靑年壯年に達しても生涯半開で終らなければならないのでありますが文明國の子供は假令十一二の時は半開でも進んで文明の階級に達する事が出來ると云ふ所にその價値が存するのであります。吾々は皇祖皇宗の御恩澤を受けて他に類のない日本と云ふ國に生れて而も文明の社會に育つたのであります。それゆゑ我國に生れた者はたとひ如何に幼い者でも文明に進む事の出來る可能力を有つて居るのであります。

かく人間の發達する階級は神經系統の上にも明に認めることが出來ます。すべて動物の心の働は神經系統の發達を伴ふものでありますが、神經系統の發達はその始の時代は下等動物と同じく脊髓や延髓のやうな反射作用を營むものゝみが發達しそれから大腦脚といふ部分や中腦といふ部分が發達し最後に大腦の皮質が發達するのであります。此最後の腦皮質が文明の生產と密に關係して居るのであります。動物には此の三種の階級がそれ〴〵に存して居るのであります。

それで子供の時代は下等動物と同じやうに機械的の働きばかりを致しますから心なしに手足の運動をするのであります。次には感覺や記憶が現はれそれから段々と高い程度の心が開けるのであります。それ故今私共が文明の世の中に生れて文明の心を有つて居ましても此狀態の下には皆未開半開等の時代の心の働が入つて居るのです。それがちやんと中に納まつて居るのは一番上の文明の働の心に因つて支配されて居るからです。即ち文明の結果たる一番高い心が全體を支配して居るからであります。其一番高い心は何んであるかと申しますと道德宗敎美術科學哲學等がそれであります。是等のものが文明人の心に宿つて居て野蠻の頃の亂暴の心を締め括つて居るのであります。其締括くりが綏んで來るとすぐに人は色々と亂暴を働いて來るのであります。宗敎心がないと人柄が惡くなり道德心が缺けると亂暴をする美術心丈けが缺けても餘程人格に缺點を生じて人間に貴ぶべき優美な心が缺けてしまふのであります。それですからどんな立派な人でもその心の底には動物のやうな又野蠻未開の時代の人のやうな働があるのですが夫が文明に變化したと云ふのは其心の統一があつてよく是等を支配して居るからであります。其有樣を誠に麗はしい筆を以て解いて居る文士があります。それはラフカヂヲ、ヘルンと云ふ人であります。此人は外國に生れた人ではありましたけれども日本の人よりもよく日本の事を詳しく調べてそれを實に流麗無比なる筆を以つて書いて日本の美點を世界に紹介して呉れた恩人であります。其人は亡くなりましたけれども其書中には日本の御婦人を非常に讃美して居ます。氏は實に日本の婦人の優美なること宛も天使の如く世界の中に日本の女程麗はしいものはないと云つて非常に日本の婦人を賞めて居ます。夫れに引き換へて晩年には日本の男子は惡魔であると云ふ樣に書きました。併しかやうに激した時でも婦人丈けは依然として天使の樣だと云つて居ります。さうすると日本の御夫婦は惡魔と天使

どが結合した譯でありますが兎に角斯う云ふ風に御婦人を天使とまで賞められた人は日本の御婦人に取つては眞に知己であります。併しヘルン先生が疑ひを起した事があります。斯くまで優美でやさしい所の日本婦人が時に據るとひどい事をする。例へば夫が他の人に恥しめられて殘念だといつて復讐に行く時妻が私も一緒に行きませうと云つて夫と共に終に其讐を殺害したといふやうな事は平生の優美柔和と矛盾するやうである。そこでヘルン氏はその理由を探つて次のやうな說明を致しました。

是は日本一般の國民性である。日本の婦人の優美な點は色々ありますけれ共殊に茶の湯に依つて現れて居ります。其茶の湯に往つて主人が持ち出す箱を見るに先づ蓋を明けると中から麗しい錦に包んだ物が出るそれを開くと更に絹に包んであり又それを開くともう一つ木綿の布で包んでありなほその下は柔かい紙に包んであるといふやうに非常に大切にしてある。そこで最後に中からどんな大切な物が出るかと思ふと一向麁末なきたない素燒の茶碗が出て來る。日本の婦人の心は恰度これと同じで素燒茶碗を錦や絹や木綿や紙で包んだ樣なものである。日本婦人の心もその根底には昔其儘の男女一緒になつて戰に行つたと云ふ樣な強い働が遺つて居てそれをいろ〳〵の優美なもので包んだのであるといふやうに說いてあります。

併し是は必しも日本婦人に限つたことではなく今日の文明國の人間はみな其通りであります。凡そ人の心の中には野蠻未開の時代に行つた殘酷な性質が遺つて居るのです。例へば火に燒いたり水に溺らしたり突き殺したりする荒々しい心が深く根ざして居て時に破壞的本能となつて現はれるのであります。卽ち前のやうに何か強い事が來て上を蔽うて居る最高の上皮を剝ぐと中からひどい物が出て來るので、譬へて見るとピツクリ函のやうな物であります。ちやんと鍵が懸つて居ると何事もありませんが鍵を脫すると吃驚するやうな物が飛出して來るのでありま

す。今日は戰爭が東洋にも西洋にもありまして歷史あつて以來の大戰爭でありますが、此戰爭の有樣を見ますと驚く可きことが多いのであります。即ち宗敎が盛んであるとか道德が行はれて居るとか哲學も科學も進んでゐるとか美術の國である工業の國である最も進んだ國世界第一の文明國と稱せらるゝ國人が何をして居りますか。非常に慘酷な戰をして居ます。實に吾々の時に驚く酷いことをして居ます 之を見ると平素の宗敎も哲學も美術も何にもならぬと一概に西洋をけなし度くなりますけれども、それは無理なことであります。戰爭と言へば宗敎とか美術とか云ふやうなことを考へて居つては出來ません。さう云ふ思想が國と國とを支配して居る間は戰爭は起りません。戰爭をすれば何の國でも慘虐なことを仕易くなるものです。此の時には人類の最近に開けた心の上皮が剝げて仕舞ふのであります故仕方がありません。此度の戰爭で何故獨逸が彼の通りに批難されて居るかと云ふと、詰り文明の誇りとして居る立派な美術品や建物などを打壞し且つ人道に反するやうな不道德のことをするからであります。成る程獨逸兵のやり方は甚だよくないことですが一體に戰爭の時には人が亂暴をすると云ふことは免れぬことであります。個人と個人との間で喧嘩をしたといふやうな場合にはそれほど慘虐の事をせぬが戰爭の時にはひどくなる。それはどういふ理由であるかと申しますと、人と人と爭ふ時には、それ以上の高い力のある人があつて何方が善いか惡いかを裁判することが出來る。喧嘩をして命の遣り取りをすると云ふやうな事は餘りないが、國と國との戰になると、一方は亡び一方は興るので、即ち個人で言へば、命の取り遣りをすることになり、且つ國と國との間には裁判をする者がないから、何うしても負けてはならぬ、何んなことがあつても勝たなくてはならぬ、と云ふことになります。我國でも今戰をして居ます。此度の戰爭は日淸戰爭や日露戰爭のやうに國民に直接に敵愾心が起らないやうでありますが、苟も戰爭

を仕出した以上は國の前途の運命に及んで來ますからどうしても勝たなくてはなりません。それに就きましては人々の健康が重要なる關係を有つて來ます。一體人が健康を得るのは人の二つの理想の一面を實現するわけです。凡そ人の理想は一面心の方は人間以上の佛とか神とか云ふ絶對に近いものとならなければなりません。道德も宗敎も美術もより高い進歩をするやうに人間以上のものを標準として進まなければなりません。又他面には現在よりもより強い肉體を養ひよく艱難に耐へることの出來るやうにせねばなりません。これが所謂獸體佛心でありまして、心は佛樣の如く體は獸のやうに強くならねばなりません。

今日の文明國民の理想は心は人類以上の絶對者を標準として益々進み體は勇猛なる動物の如く寒暑に辟易せず如何なる病氣が襲うて來ても屈せぬやうになるにあるのです。ところがそれは却々難かしい。一面には優美な優しい佛の心のやうに、又一面には何んな艱難にも耐へるやうな強い身體になると云ふことはなか／＼難い。始終此間に矛盾を生じます。皆樣が試驗だからと云つて勉強をなさる際には、晝夜とも衞生のことなどは構はず、たゞ／＼試驗がよく出來れば良いと云ふ風に試驗と云ふ心の方を主として體に大切な衞生の方を省みないやうになります。そこで試驗の成績は良くつても神經衰弱を起すと云ふやうになります。かう云ふ風に人は體と心との衝突する場合が多いのであります。之を調和して一面に立派な優しい高い心を養つて行くと共に、他面に立派な體を造つて、兩方がよく調和して茲に始めて偉大なる人格が出來るのであります。皆樣方は婦人衞生會に於て、衞生の必要なる事を御聽きになつて居らつしやるし又學校に於ても生理衞生等の十分なる智識を得てお出になりますから身體の方面の事を疎にお考になるやうなことは無いでせうが一般に兎角身體の衞生に重きを措かぬ傾がありますが、それは非常に間違つて居ます。併し又體ばかり強くつ

ても心に働が十分でなければ立派な人格を得る譯には行きません。

都會に住んで居る者と田園に生活して居る者とを較べて衛生上何方が宜いかと云へばいふ迄もなく田舎の方は空氣が新鮮であるが都會の方は煤煙が濛々して居つて甚だ非衛生的である。上野の樹木を御覧なさい煤煙の爲に大部分枯れて仕舞つて居ます。之に反して田園に行けば空氣がよくオゾンが澤山あつて衛生には都合が宜いけれども、都會に住んで居る人が必ずしも皆身體が虚弱で仕事が出來ず田舎に住んで居る人が皆健康で立派な仕事が出來るかと云ふとさう云ふ譯には行きません。却つて都會に住んで居る者の方が年を取つても立派な働を爲して居る場合が多いのであります。例へば現總理大臣大隈伯爵の如きも田園に生活せられた方ではない。壯年以後は大抵何時も都會の不健康なる空氣中に居られたのです。勿論都會と云つても屋敷も廣いから裏店のやうなひどい所に居る人とは違ひますが煤煙は何んな立派な家でも遠慮なしにどん／＼入つて行きますから都會は一般に不健康なる場合が多いのです。然るに不健康な都會に生活して居る者は年を寄つても大隈伯の如くに盛に仕事をして行けると云ふのは精神的の影響もあることゝ思ひます。都會に居る五十歳位の人と田舎に居る同年位の人とを較べて見ると大變違ひます。田舎で五十歳位になると孫の二三人もあつて何も仕事をせず樂隱居とし老人として暮して居る者が少くない。孫のあると云ふことは誠に目出度い結構なことでありますが田舎に居ると外界の刺戟が少なく世事に關係が少ないから精神の抵抗力が減じ從つて早く年を取るやうになるのです。是に反して都會の人は精神が非常に緊張して居るから仕事も盛に出來るのです。概して都會の人は周圍の必要上から精神が緊張して居ますから困難な仕事にも耐へることが出來るのです。併し都會に居ましても生活にも困らず緊張して從事すべき仕事もなく、同じ事を毎日繰返して居るやうな人は困難もなく勵みもな

く、終に身體の抵抗も弱くなつて來るのです。戰爭もそれと同じことです。都會の生活をして居る人は譬へば始終戰爭して居る樣なもので、鵜の眼鷹の眼になつて皆名譽利益或は學術の爲に烈しい競爭をして居るのです。さう云ふ風でありますから心が皆引き締つて居るのです。然るに田舍に居ると、學校にしても競爭者が少ないから氣樂である、其爲に刺戟せられることも少いから油斷をして仕舞ふやうになります。それが都會の學校にでも入るやうになると、一層心が緊張して來ます。之と同樣に戰爭の場合には今迄病氣に罹つて居たものも自ら進んで起つと云ふ風になつて來るのです。斯う云ふとは誰しも氣が付くことでありますが、すべて人の精神は非常にその健康狀態に影響するものであります。一般に子供が早く世に立つてしまつた人達の親は早く年が寄ります。それは安心して心の張りが無くなる爲めであります。五十歲や六十歲ではまだ立派に世の中に立つて仕事をして行かなくてはならぬのに、安心をして、もう是で大丈夫であると云ふ考を起す爲に早く心身が弱つて仕舞ふのであります。然るに其年頃に至つても子供が少いとか或は自立することが出來ずして何うしても自分がまだ生きて居らねばならぬと云ふやうな心を持つて居れば其人の心は非常に緊張して居ますから五十になつても六十になつても衰へぬのです。勿論是は人々の性質にも依りますが、一般にもう宜いと安心すれば急に衰へる場合が多いものです。世間にさう云ふ人は幾らもあります。人間の長壽の秘訣は安心をして樂をしてはならないのです。と云つて始終心配ばかりして居てもいけません。是は學問上道理のあることで、年を取つてもぶらぶら唯遊んで仕事なしに居るのも困るから、何かしたいと云ふやうに自分で進んで適當の仕事をすると云ふやうにして居れば自然と身體も丈夫に保てる譯であります。要するに外界に對する抵抗調節が衰へると身體は弱くなつて仕舞ひます。そこで皆樣が親孝行をなさるには老父母に何にもさせぬといふや

うにたゞ樂にさせ申して置いてはなりません。むしろ御父樣何うぞ此事をして下さい、お母樣之をお願致しますと云ふやうに仕事を提出して、爲て貰ふが宜いのであります。是れは親に働かせるので一寸考へると惡い事のやうでありますけれども、それが却つて長壽の助になるのでありますから親孝行になる譯であります。子供が「どうしてもお父樣お母樣は私の爲にもつと生きて下さらなければならない」といふやうに心から兩親を信賴し、又兩親の方でも子供の爲に生きて居なければならぬと云ふ氣になると、心が緊張して居るから自然健康の狀態を保つことも出來るのです。斯う云ふ風に人の健康狀態には精神の抵抗調節が大變に影響するのであります。すべて心の緊張して居る人は病氣にも餘り罹らず、假令流行病に感染するやうなことがあつてもそれに堪へることが出來ます。さう云ふ例は色々ありますから、是から御話して行かうと思ひます。

昔から「病は氣から出る」と云つて居りますが、其人の心持で病氣の起ることがあります。それには種々ありますけれども先づ想像作用からお話致しませう。心の中に色々の事を想像して、それが病氣の原因となることが幾らもあります。是は強い想像の刺戟が身體に變化を起して來るのであります。或所で子供が西洋館の下で遊んで居りましたら其側の窓の戶が破れて高い所から硝子が落ちたので子供は頭から硝子片を浴びて其爲に怪我をして氣絕して仕舞ひました。それをお母樣が見て非常に驚き早速病院に連れて行つて療治をしました。子供は醫者の力に依つて氣が付いて、痛い〳〵と泣き出しました。母はそれを見て、嘸痛いだらうといふ強い思遣りの爲に、恰度其子供の怪我をしたと同じ場所が見る〳〵腫れ上つて痛んで來ました。その爲にとう〳〵母も療治をして貰つたと云ふ話が英吉利の書物に出て居ます。これと同じやうな例が此外にも澤山あります。或る所で兄が弟の療治をするのを見て如何にも痛いだらうと云ふ想像を起し其爲に熱が出て同じ所の關

節が痛み出して、治療を受けたと云ふこともあります。又露西亞の小說家でフローベルと云ふ人が書いた「マダムボバリー」と云ふ小說の中に女が砒石を飲んで自殺をするところがありますが、フローベルは此處を書く時に自分が砒石を飲んだら斯んな風に苦しむのであらうかと云ふ風に非常な想像をして筆を執つて書いたので自分が恰度砒石の中毒と同じやうな症狀を起したと云ふことであります。かやうに餘り強い想像をすると、それから病氣が起ることがあります。それから又非常に子供を欲しがる夫人があつて、妊娠に就て非常に強い想像を起した爲に段々とお腹が大きくなりました。それを大變に喜んで是は子供が生れるに違ひないと思つて居たところが十月經つても生れない、どうも不思議である――御釋迦樣ならば三年三月御腹に居られることもあるでせうが、普通の人で斯んなに長く生れない筈はない、どうも不思議だと云ふので醫者に見て貰つたところが、眞の妊娠ではなく、全く想像妊娠であると云ふことがわかりました。それを聽いたところが今度は今迄大きかつた御腹が急に小さくなつて仕舞つたと云ふことであります。是は誠に噓のやうな話でありますけれども、御醫者樣に問うて御覽なされば隨分例のあることです。それから催眠術に掛かると暗示に依つて非常に想像が強くなる、それが爲めに身體に影響を及ぼして來ることがあります。佛蘭西のリエボーと云ふ人は、催眠術の大家でありますが或時何か品物を催眠術を掛けた人に持たせて置いて、お前の今持つて居たのは火の付いて居る石炭であると云ふと、何んともなかつた手が赤くなつて火傷をしたやうな狀態になつたといひます。私もさう云ふ實驗をしたことがあります。或時赤い本を疊の上に置いて是は火だからあたつて御覽と言ひましたところが、暖かい〱と言ひまして、見て居ると手が段段赤くなつて來た、それから又大變に暑くなつて來て終には火傷をして火腫れになりました、さうして大變に痛がつて居りますから癒してやるからお出で

と云つて水を付けてやりました、此水は獨逸から來た效驗ある藥だが、之を付ければ直ぐ癒ると言つて此水を付けて擦つてやりましたところが腫が引きました。又たフォーレルと云ふ人は絆創膏を付けて發泡膏であるといふ暗示を與へましたら、全で眞の發泡膏を貼つたやうに水腫になつたと云ふ事であります。斯ふ云ふやうに人の想像は非常に身體に變化を及ぼして來ます。隨つて催眠術に掛らぬ人でも想像の爲に病氣になる人が澤山あります。又之に反して之を利用して精神療法を行ふことが出來ます。昔の醫者には却々かゝる人が多かつたのです。昔の人には色々の迷信がありますから想像から病氣の癒つた例は澤山あります。或大名の御殿に一人の女がありましたが或時夜中水が飲みたくて堪らぬけれども水のある處が遠いので急に用が足りませんから仕方なしにそこにあつた汲み置きの水を飲みました。朝になつて見たら其の水の中に孑孑が入つて居たので非常に心配をして何んだか急に御腹が痛くなつて、定めて澤山お腹の中に孑孑が入つたことだらうと思つて大變に神經を起して苦しんで居ました。其時御殿醫に大さう氣の利いた人がありまして想像を逆に應用して之を直しました。先づ吐氣を付ける丸藥を拵へて其中に小さい赤い絲を切つて入れて飲ませました。暫く經つと吐氣が付きましたが其吐いた水を見せて此通り貴方のお腹から孑孑が出て居りますからもう大丈夫でございますと申しましたらそれで其病人が癒つたと云ふことであります。又或ヒステリーの婦人がありまして胸が差込んで痛くて堪らぬからモルヒネを注射して貰ひました。度々之を注射して中毒を起してはならぬので或時醫者が水を注射しましたらそれでもモルヒネと同じやうによく利きました。ところが或時其婦人がそれは水であると云ふことを聞いて大さう怒りましたがその後は眞のモルヒネを注射しても利かなくなつたと云ふことであります。又精神病等は想像より起ることが隨分あります、先年私の所に愛媛縣の人で非常に沈鬱な容子

をして來た人があります。どうしたのであるかと段段譯を聞いて見ますと自分の處で家を建てやうと思つて庭を堀返しました。所が五輪の塔が出て來ました。其爲に其人は嗚呼此の中に埋められて居た人は私をどんなに思つて居るであらう。私は斯んなことは知らずに堀り返したのであるが、嘸恨んで居るであらうと云つて始終氣に懸けて居りました。餘り氣にした爲に夢に何とも判らぬ人が現はれていろいろ恨がましい事を申すやうになつたので非常に心配をして終に沈鬱症にかゝりわざ〳〵上京して私の處に相談に參り「何うしたものでせう、御祭でもしたら宜いでせうか」と云ふのでありました。そこで「私は其人の氣の濟む樣に忠告して、神官でも呼んでお祭りをしてやつたらよいでせうと言つてよく勵まして歸しました。ところがそれから非常に元氣が付いたやうでした。さう云ふ風に想像から精神的の病氣を起すことがあります。十九世紀の初に伯林にフーフエランドと云ふ醫者があつて長壽法を書きましたがその中に一の祕傳として人は何時も愉快な想像を心の中に描いて居れば必ず長生きをすると言つてあります。戰爭なども矢張りさうで、悲觀して種々と惡い結果のみを想像して居ては國民全體が委靡して仕舞ひ、從つて國民の健康狀態にも非常に關係して來ますから、成るべく活潑な精神を懷いて居らねばなりません。さうすれば最後には必ず國民全體の健康狀態もよくなつて來るでありませう。

（以下次號）

身のうちのぬしはこゝろよ一身の
安危はぬしの心にそあた

（多紀安元法印の養生歌）

叢談

國民教育巡廻衛生展覽會

母親と哺乳兒

目下歐洲の大戰亂に於て何と云ふても獨逸軍の精力の偉大なることは敵味方共に認めざるを得ぬ事實であります、そも此の恐るべき精力は何處より出來つたものでありませうか、これには種々樣々の原因もありませうが、第一に獨逸國民の體力の剛健なること第二に科學の進歩普及、この二の力が彼の國を強からしめた主要の原因であらうと思はれます。而して國民の體力と科學の進歩と云ふことは互に相俟つて益々國力を強大ならしむる根柢となるのであります。國民を強健ならしむるには何うしても小兒の時代より否腹の內からその方針に向て科學的の合理的の注意を拂はなければならぬのであります、目下は戰爭中で何もかも有つたものではありますまいが、如何に獨逸國民が平素國民の健康を增進するに汲々たるかは、その育兒に關する種々の研究並にその智識の普及に極力努むるのを見ても解かるのであります。今は敵國でありますが、吾々はこの敵國に學ぶべき所が頗る多い。本年より公益國民啓發協會(之は假に譯して見たのですが(diegemeinnützigen Volks-borngesellschaft)で「母親と哺乳兒」と云ふ題目で以て巡廻展覽會を始めました如きもその一つで、確かに右の目的に裨益する所が多いこと、思はれます。依て大槪その組織をこゝに御紹介致します。

「國民を啓發せよ、健康と精力と美とを汲むべき泉源を與へよ」と云ふのは此の協會の題目でありますが、國民を啓開する、即ち國民に智識を普及すると云ふことは民福增進の根本的要件であります。これは既に何人も認めて居る所でありまして、今日に於ては益々これが爲に時と力を用ひて開發に努めるやうに

なりました。さて衞生的智識の普及と云ふことは非常に必要なことで、これに關係ある人々が全力を盡して骨を折りますが。何處も同じことゝ見えまして獨逸邊でもなか〳〵國民全般に衞生思想を普及せしむることは困難である、相變らず國民の間には無智と迷信とが支配して居りまして、所謂敎育ある社會にも隨分愚な事が信ぜられ、行はれて居ります、これが卽ち非醫者や祕密藥や、御祈禱などの乘じて以て惡錢をせしめる所で。云はゞ山師者や欺騙者の好餌であります。

それで何とかして斯樣な人々に衞生上の確實な智識を與へてその迷を解き、邪路に誘はれぬやうに說き聞かすことが必要でありますけれども、扨てこれが容易でない、講話、小册子の施本或は新聞雜誌等に依て衞生思想の普及を計ることは誠に結構なことで是非遣らなければならぬことでありますが、淺薄な思想に支配されて居る大多數の民衆を敎育するには足りない、且つ衞生的の智識を學び得る特別の時間とては無い、偶々講話を聽き雜誌を讀み得る位の僅かの時間で以て、その無頓著より警醒し眞にその大切なることを會得せしむることは頗る覺束ないのであります。これには何でも興味のある面白いものを觀せて自然に敎育するのに限る、卽ち眼を引くもの目新しいものに依て慰み又は好奇心を滿足させ、これと同時に視たり聽たり經驗したりして深く記憶に止めさすやうにすることが必要であります、實際今日の民衆は芝居、寄席特に活動寫眞のやうな面白いものに慣れて居りますので、何ら爲になつても乾燥無味の學術講演などには出て參りません、殊に幾程僅かでも會費などを徵收することになりますと決して集まらないのであります。

斯う云ふ風でありますから、この目的を達します爲には餘程工夫をしなければならぬのであります。獨逸では彼のドレスデンの萬國衞生博覽會の際に人類館の通俗部に於て衞生課の方の顧問者たり又指導者として諸方面から好評を博したドクトルアルルッール

リユールセンと云ふ人の主唱で醫事衛生思想の普及に努める一つの會が出來たのであります、この會の主なる仕事は、先づ衛生に關する種々の領分に就てその形式に於ても内容に於ても趣味あり且つ何人にも理解さるゝ巡廻展覽會を組織しまして、個人の管理の下に旅に出し或は公共の會又は役所其他の所に貸して自由に利用させることであります。その第一回の巡廻展覽會は、實際の題は『母親と哺乳兒』と申しました。この標題は何の位の程度まで包括したものかと云ひますとその部類別の目錄で一寸見ますと品目が一千二百で、これに要する地面は約三百五十乃至四百五十平方「メートル」と云ふのであります。今その大體の仕組を述べますと、

先つ參觀者の第一に迎へられる所は『親たる者の資格』と題する部でありまして、此處では遺傳の善い影響と惡い影響とに注目せしむるやうになつて居りまして、次に良心に乏しい兩親に依て生まれた子供の悲慘な有樣を說いて居ります、即ち遺傳黴毒、風眼、アルコール中毒、鉛中毒等の爲に不具にされた子供の狀態を示して居ります。

母親たるべき婦人の特殊の資格に就きましては『婦人の身體』、『妊娠』、『分娩』及び『產褥』等の各部門になつて居りまして、分娩の狀況を示す部は、特別の幕を廻らした場所に拵らへてあります。その說明に依りまして、先づ危險なる事柄は如何なることに由て起るかと云ふことの合點のゆくやうに要領を示し從つて如何なる心得が必要であるかと云ふことが自から會得されるやうになつて居ります、即ち此處では婦人の身體は如何なる特別の仕組に出來て居るか、母と云ふものは如何に偉大なる任務を持つて居るものであるかと云ふことを視ることが出來ます、尙ほ婦人の職業的勞働或は男子との競爭は母親及びその小兒の爲にも害あることを示して居ります。母親達が特に此處で感謝すべきことは、往々自分には解からぬ、從つて何だか恐しいやうに思はるゝ作用及び狀態が明かに示され、母たるべき覺悟、妊娠及

び產褥中の攝生は如何にすべきものであるかと云ふこと迄も會得されるやうになつて居ることであります。

何人も興味を感じますのは、人間の發生及び發育の祕密を窺ひ得ることでありませう、即ち『胚種發生』部に到りますと、其處には蠟細工の模形、實體鏡の繪や寫眞などが澤山有りまして、人間の胎内で發育する順序模樣が能く解かるやうになつて居りますが、尙ほその人間の芽が、從つて全生活が病氣或は間違つた生活法に由て何う云ふ風に害を受けるかと云ふことを學ぶことが出來ます。

その次に參りますと、今度は『哺乳兒の發育』部でありまして、矢張その發育の次第を示すと共に自然の要求に從つて發育を完全ならしむる種々の方法を敎へて居ります。

それから『哺乳兒疾患』部に參りますと、此處には勿論種々の病氣の有樣が示されて居りまして、特に病氣の初めの狀態が蠟細工模形、著色圖、寫眞、石膏細工の模型などに依て全く自然の實物を觀るやうに出來て居ります、これは素人に病氣の診斷を敎ゆる爲ではないので、非常に大切な而かも大抵の人は氣付かずに居る所の健康と疾病との區別を明かに示しこれを打棄て置き或は考へ違をして居る、又は醫師の言ふことを守らぬ場合には如何なる結果になるかと云ふことを觀せる爲にしたものであります、又病氣の原因、例へば種々の非衞生的の習慣を指摘して自分で氣をつけるならば幾多の病氣を免れ得るものであると云ふことを示して居ります、此の部は主として疾病の狀態を示して居るのでありますけれども、少しく眞面目に考へる人に取つては別に恐ろしい、厭な感じを與へるやうなことはない、安心して種々有益な事柄を覺えることが出來るやうに氣をつけてあります。

『哺乳兒の看護』と云ふ部は前の『哺乳兒の疾患』部と同じく可なり廣い場所を占めて居りまして、矢張り種々の圖畫や品物に依て哺乳兒の取扱方の正しい

方法と間違つた方法とを互に對照させて、哺乳兒の要求、それを滿足させる手段方法、善い看護法、間違てゐる看護法及び過ぎた方法の結果を各々較べて見てその利害が一目に解かるやうにしてあります、特に自分で乳を與へることが出來るのに、乳を與へず、牛乳でその子供を育てる母親に對しては烈しく、その良心を責めるやうに、總ての點に於て人工榮養の小兒は母乳榮養の小兒に劣り、貧民の子供でも母の乳で育てられる小兒は、金持の家の大事にされて牛乳罎で育てられる小兒よりも遙かに立派に發育することを誰が見ても解かるやうに示してあります。

この會では各種の代用品に就ては全く批評を加へません、これは人工榮養品の撰擇及び判定は治療をする醫師の意見に依るべきものとして居るからであります、その代りにこの『哺乳兒の看護』部では特にその爲に養成された育兒看護婦に依て、少女及び婦人の爲に實際的母親の講義を致して居りまして、毎常も大入りで御座います。

最も淒慘の氣に滿ちて居りますのは『哺乳兒の死亡』と題する一部でありまして、これは國民の精力竝にその文明の程度に依て差はありますが、我國などは餘り自慢の出來ぬ方であります、子供の生れる數に於ては決して外國に劣らぬが、小兒の死亡數もなかなか多い、斯樣な關係が種々の表や圖に依て能く解かるやうに表はされて居る、一體統計は素人には一寸理解しにくいもので從つて興味を惹きにくいものでありますが、此處では全く素人の理解が出來るやうに統計上の大事な事柄を面白く示してあります。尙ほ所々で既に始めかけた哺乳兒死亡の豫防法の概略竝にその成績を示して居ります。

それから又近來歐羅巴で非常に八ケましくなつて來た分娩減少問題に就きましても、その著しい現象及び原因を種々の表や圖で説明して居ります、尤も分娩減少の防遏の方法に就ては直接の説明を與へてないやうでありますが、併しこの展覧會全體を通じて見て參りますと、母親竝に哺乳兒が遭遇する危險の

如何なるものであるかと云ふことが解かり、從つて母親の種々の不安を取除き、これに對する心得も覺えますから、自ら分娩減少防遏の手段となる譯であります。

最後の所が「母親及小兒に對する社會的保護」と云ふ部でありまして、此處には各地方團體の出品がありまして、その一部に於て實際に行つて居る方法を說明して居りますが、これは單に官廳及び社會公共團體のみならず、今日では總ての人が弱い同胞國民を助けることに努め、而かも從前の如く徒らに慈善と云ふやうなことではなく、益々社會的の組織に依り、自助を補助することに由て行はるゝやうになつたことを示して居ります、且つ各人がこの社會的保護に力を添ふる義務のあることを敎へて居ります。この事を一般の人が會得し得るやうに實物、模型標本其他種々の生活の寫眞、圖畫、造形的說明、統計表の如きものを集めてありますので、既にそれだけでも事情が能く解かるのみならず、何れも面白い興味のあるものばかりで、品物に附いて居る略說を見ますと、或は悅ぶべく或は慨嘆すべく、或は警戒すべきことが解かります。

斯樣な風に現代の醫學の智識のみならず、過去の歷史上の智識も得られ、又他の國民、未開人種の生活を知り、加之ならず諸種の藝術を應用致しまして健康と美とを敍述し、一方に於ては吾々が知らずに行つて居る不健全な事に氣がつくやうに整頓されて居るのであります、尙ほこの國民啓發會の有益なことは、單に自分の會に都合の好い展覽の仕組ではなく、臨時に博物館でも學校でも地方の團體の爲にでも持て行かれるやうにしてあることでありまして、既に非常に好評を博して居るのであります、斯樣な譯でこの巡廻展覽會は國民の啓發、通俗敎育の一法として非常に有益なことを認められ、今までにもライプチヒ、ハンノーフエル、フランクフルト等で開催され、戰爭前までは、エッセンで以て『吾々の少年』と云ふ題目で大展覽會を開催し大評判でありました

が、斯う戰爭になつては仕方もありますまい。實に羨ましい事で、何うか我邦に於ても安い費用で以て斯樣な有益な巡廻衞生展覽會と云ふやうなものが組織されましたならば、國民の通俗教育の爲に又直接に衞生思想普及の爲に裨益する所が多いことであらうと思ふのであります。私は衞生思想普及の極めて大切なことを思ひ、而かも一般の人々の無頓着なこと、普及の困難なこと、現に私立大日本婦人衞生會などの振はないことを慨嘆するの餘り、敵國あたりの國民は如何に熱心に國民の健康の爲に、國力の充實の爲に努力しつゝあるかと云ふ一端を紹介し度いと存じまして獨逸の國民啓發會の事業の概略を述べた次第であります。

害蟲の豫防及び驅除（承前）

陸軍一等主計　由家永喜

次は蚤のことを申上げます、この蚤と云ふ蟲は申上げるまでもなく、されば翅の必要がなくして退化した所のものでありますが、蚤が發生して夜間子供を苦しめると云ふことに至つては中々容易ならぬことであります、これが爲に母親が朝から晩まで家事のことに働いて居りまして、漸くこの夜の短かい時にサアこれから睡眠をして今日の疲勞を恢復しやうと云ふ時に、子供が斯う云ふことをやるとどうも仕方がないから、子供を起して寢まきを脱して玆に蚤退治を始めます、蚤退治を始めました所で夜具の中に入つて居る蚤は中々一匹や二匹でありませぬから、蚤を捕へて子供に寢まきを著せて寢かせると又直ぐかき初める、母親は折角ウト〱しても子供の愛に引かされて又見てやる、それを何度も續いてやりまかすから、母親は折角休まうと思ふ時間を子供の爲に一時間や二時間は譯もなく損するのであります、それが爲に母親が健康を害してソレ御醫者に通はなければならぬ、ソラ何處かへ轉地療養しなければならぬと云ふことも起るか知らぬと思ふ、それでこの蚤

と云ふものは唯小さな蟲であつて彼が腹いつぱい血を吸ふた所で幾らでもないから、血の吸ひたいだけ吸はしてやらうと云ふ決心のある人ならば宜いけれども、さうでない限りはどうしてもこの蚤は一匹も居らぬやうに退治する必要があるのであります、それでこの驅除をするのにはどうするか先づ蚤と云ふものは成蟲の儘で越年をするのであります、その冬を越すのは疊の下若くは牀板の間、或は柱の隙間等の塵の澤山溜つた所で冬越するのであります、さうして春三月の上旬から中旬頃、年に依つて氣候に寒暖がありますから多少の差はありますけれども、先づ攝氏の十二、三度と云ふ溫度によると蚤がボツボツ活動を始めて來ます、それでこの蚤の活動を始めて來た時にこれを退治することが一番必要なのであります、皆さん御存知の通り蚤は身體の中に卵子を澤山有つて居ます、蚤を潰して御覧になると八ッから十二位の卵子を有つて居ります、その八ッから十二位の卵子をその邊に產まれたらサア大變、一匹の蚤が八ッから十二位に殖えるのであるから、十匹の蚤が產むものとしたならば八十から百二十位と云ふ數になる、それでこの冬越期間は蚤の數が少ないのであるから其時に驅除するのはわけもない話であります、どうして驅除するかと云ふと、先づ其活動を始めて來ました三月の中旬から下旬までの間に於て家の疊を悉く起して、天氣の好い日に外へ出して疊の裏を日光にあてるやうにして置きます、一方には疊を起した牀板の挨が溜つて居る所を釘の先きのやうなもので皆掘り取つて掃寄せて庭で燒く、その内に疊の裏の方は日光に觸れて段々溫度を持つて來て大變好い心持になつて來るから、蚤が日向ぼつこに皆出て來る、そこへ片腦油を散布する、片腦油を散布するにはスプレーと云ふものがあります、それでこれに觸れた所の蚤は全滅して仕舞ひます、又一方には牀の上の掃除をした後へ持つて行つて片腦油を散布するのであります、それから丁度牀の上の片腦油が揮發して乾いて仕舞つた時分に疊をたゝいて

蚤の卵子が付いて居たり若くは幼蟲が居たり、成蟲が死んで居たりするのを皆落して塵をよく掃つて敷込むのであります、斯の如くすれば蚤と云ふものは殆ど全滅をしてしまひます、併しながら外から又一、二匹宛拾つて來る事もありますから時々それを行はなければなりませぬ、時々行ふと云ふた所で三月の末に一回、入梅前に一回、入梅の終つた所で一回、又九月頃に一回、三、五、七、九、と云ふ月にはその月末に一回位宛それをやつたならば決して蚤の發生すると云ふ事はない、一匹も居らぬと云ふても宜い位全滅が出來ます、その時に固形ホルマリン、詰りホルマリンの固形になつたものを私の宅などは大掃除をした後で疊の下に二ッ宛入れて置きます、この固形ホルマリンは昆蟲を殺戮する所の力を有つて居りますから若し外から拾つて來た蚤が疊の下に入つて繁殖しやうとしても、これが有つたならば非常に繁殖を妨げられる、又これは獨り昆蟲の發生を防ぐのみならず黴菌を撲滅するには極よいのであります、常に恐ろしく臭はない程度に於てこのホルマリン瓦斯が發生して居りますと、各種の黴菌が室内に入つた時にもそれを殺し得る所の力があるのであります。されば一擧兩得だらうと思ひます。

次は蚊であります、蚊と云ふものは前に御話しました通り幼蟲は益蟲でありますが成蟲になるとこれは著しく害蟲であります、それで東京に二百萬の人口が居つて、殊に東京の眞中に居る所の者が夏蚊帳を吊らなければ安眠をすることが出來ないと云ふのは誠に殘念な事と思ふ、この大都會に於きまして蚊帳を吊らなければ安眠が出來ないと云ふことは困まつた話であります、故にこの蚊の發生しないやうに計らはなければならぬのであります、如何にしてこの發生を防ぐかと申しますと、溝渠、滯水、又池水等の水溜の所にはどうか魚族を放養して魚類に孑孑を食盡させるやうにして仕舞ふのであります、又もう一つは防火水桶と云ふのが出來て居る、この防火水桶と云ふのは神田の如き繁華な所では勿論必要も

ありませうが、この防火水桶の中には矢張魚族を放養する必要があるのでございます、何んとなればこの防火水桶をのぞいて御覧なさい、この中には孑孑が發生して居る、どれ程發生して居るか數がし切れぬ程居ります、恰もこの防火水桶は一名孑孑養成所と申すやうな感じがあります、又この附近には墓地はありませぬやうですが墓地の附近には何故蚊が多いかと申しますと墓地の花筒であります、御墓へ御參詣になるのは勿論よいが、御參詣になりましても孑孑を發生しないやうにして置いて貰ひたいと私は思ふのであります、孑孑の發生しないやうにするにはどうするか、彼の花筒の中に水を入れますが、無論水を入れませぬと生花が枯れて仕舞ふから水を入れなければならぬが出來まするることならば其佛樣に御斷りをして生花を供へないで造花を供へるやうに仕たならば大變都合が好いと思ひます、若し生花を插すならば藁を二、三寸に切つて行きまして樒を包んで花筒に插す、蚊が其處へ入つて產卵をすることが出來ぬやうにして置けばよいのであります。

今一つは東京には中々立派な宏大なる御屋敷のある處もありまして、人に依るとどうも彼處に澤山木が茂つて居るから斯う蚊が多く發生すると云ふて居る人もあるので御座います、是は決してさうではないので竹藪などがありますと其竹の切加減に依るのであります、竹の此邊の處を切り落してしまふとこれだけの所に水が十分溜つて此處に孑孑を發生するやうになるのであります、竹を切る時にはどうしても節の所を圓く切るやうにする必要があるのでございます、竹藪の竹を切るのは此位御注意にならぬと蚊を養成することになります、又蚊と云ふものは木から出て來る、樹木のある所には蚊が多く發生すると人は言ひますけれ共、決してさうではないのであります、却て木のない所に蚊は出來るのであります、無論御承知のことであらうと思ひますけれども念の爲に申して置くのであります、然らば現に玆に林があつたならば其處に澤山蚊が居るかどうであるか、

斯う云ふ御質問もあらうと思ひますが、それは盛夏の炎天に蚊が照されますと蚊の隠れ場所がないから先づ林の方へ逃げて行くのであります、丁度學校に於きまして小學校でも女學校でもさうでありますが、皆藤棚があつて太陽の光線に照されると皆その下に入つて行くと同じやうに蚊も太陽の光線に照されては堪つたものでありませんから森林の方へ逃げて行つて休むのであります、されば皆さんが公園に行つて休むと同様でありまして。少しも疑をはさむ餘地はないのであります、どうか蚊を發生させないと云ふことに就ては殊更に御注意になり、又其邊の防火水桶に就ては學校から御宅へ歸つて行きなさる度毎に今日は此方の道を通つて行き、今日は彼方の道を通つて行くと云ふ風にして、此處には孑孑がわいて居るから金魚を御入れ下さいと云ふ位に勸めて行つたならば、東京の市民は夏蚊帳を吊らないでも安眠をすることが出來るやうにならうと思ひます、麴町邊は私が居りますから來年は決して蚊が一疋もわかぬやうにして見せる積りで居ります、どうか是は共同でやつて貰はぬといかぬのでありますから皆さんもそのお積りで蚊の發生しないやうにつとめて貰ひたいと思ふのであります。

今度は南京蟲の御話しを致します、南京蟲は矢張人頭の安寧を害する所の蟲の重なるものであります、この南京蟲は一名[illegible]臺蟲とも云ひ鎭臺蟲とも言ふ、支那ではこれを臭蟲と云ふて居ります、この南京蟲は矢張先刻申しました通り翅の必要がないので二對の翅は退化して一對の翅ももつて居りませぬ、これには少し細長いのと圓いのと二種類居りますが何れも人體の血液を吸收する所の害蟲であります、この南京蟲は古來から日本に居つたものであるか否や、南京蟲の發生は德川幕府の時代に和蘭から古い船を買ふたことがありますが其時に輸入したのが日本に發生した一番最初の時であります、諸外國には英國でも、佛蘭西でも、獨逸でも、亞米利加でも、その他支那朝鮮は勿論のこと何處にも居るのであります

が、日本には古來居なかつた蟲であつて、先刻申した通り和蘭から船を買ふた時に始めて日本に輸入したのであります、其後明治維新になりまして諸外國との交通が段々と頻繁になり、引續いて二十七、八年の戰役があり、或は三十三年の戰役、若くは三十七、八年の戰役で支那地方に多く出入したのと、又支那人で日本に留學致す者が多くなつて續々日本に輸入して蔓延するやうになつたのであります、それでこの蟲は非常に繁殖力が盛んなものでありまして、又蚤や虱などゝ違つて餘程身體の大きいものであります、非常に血液を多量に吸收するのみならず之に一度嚙まれますと手足が非常に腫れて來ます、腫れるのみならず此蟲に負けやすい人でありますと所々に疱瘡を生じた如く腫物のやうなものが澤山出來て隨分なやまされることがあるのでございます、それでこの蟲の驅除に就てどう云ふ風にしたらば宜いかと云ふことを申上げますが南京蟲の棲息するのは牀板の間、羽目板の間、天井裏の板の間、或は蟲の巣の中、又戸棚の板の繼合せの所或は隙間のある所若くは箪笥、どこにでも極狹い所に潛伏する所のものであります、元來夜寇性の昆蟲でありますから、夜間出て來て人血を吸收するのでありまして、格別太陽光線を嫌ふ、又日の光ることを嫌ふのであります、故に夜間南京蟲の襲來を防がんとする時は室内に燈火を十分明るくつけて休んで居れば南京蟲に襲はれることが餘程少ないのであります、併しながら餘り燈火をかゞやかし過けば安眠することが出來ませぬから、どうしても根本的に南京蟲の驅除をする必要があります、これを行ひますには種々な方法がありますが、或は除蟲菊の粉をそこへ散布し、或は除蟲菊の水溶液を拵へてそれに注射し、或は「プレシン」を散布し、或は「イントール」と云ふやうな藥を注射する等色々ありますけれども、これらの方法は唯姑息的の方法であつて好い結果を現すことが出來ない、どうしたらよいかと云ふことに就てはまだ十分この研究をして居りませぬけれ共先年師團の中に

も或所に發生しましてその驅除法を行ひました、されば數年前にやりまして今日迄もまだ一匹も發生いたしませぬので、その方法がよろしからうと思ひますから御紹介をいたします。

それは「シャウゴー」と云ふ非常に毒のある藥があります、この藥を酒精で溶液にするのであります、先づ三十倍四十倍乃至五十倍先づ四十倍位が適當だらうと思ひます、その溶液を拵らへて注射する、總ての間隙、空隙等に注射をするのであります、さうすると南京蟲が全滅するのみならず是の產卵した所の卵迄全部死滅いたします、併しながら壁の裏に入つた南京蟲は如何樣にもこれは驅除の方法がないのであります、ない譯はないが困難であります、前の溶液を壁に注射するかと云ふことさうは行きません、それで斯の如き場合にはどうするかと云ふと燻蒸法を行ふ、何を以て燻蒸するかと云ふと亞硫酸瓦斯を以て燻蒸する、或は二硫化炭素の瓦斯を燻蒸する、或は水酸瓦斯を以て燻蒸する等色々ありますが、亞硫酸瓦斯の如きは御存知の通り色素を褪色する憂がありますからこれを用ゆる場合には餘程注意しなければなりません、又二硫化炭素と云ふものは非常に時にして火を引く憂がありますからこれを取扱つて居る時には特に注意しなければなりません、又水酸瓦斯と云ふのは非常に毒力を有つて居るから餘程注意しなければならぬ、これらを行ひます時にはどうしても專門的の力のある藥劑師若くは昆蟲家の力を俟つて驅除しなければならぬだらうと思ひます、それをやります方法を簡單に申しますと室內の空氣が少しも流通をしないやうに全部目張をする、それは內部からでは效力がありませぬから外部から目張をする、さうして空氣の流通をしないやうに致します、それで二硫化炭素でありますれば一千立方尺に四封度位を用ゐまして瓦斯を發生させます、さうして先づ二十四時間乃至四十八時間密閉した儘で置くのであります、然る時は南京蟲は全滅するやうになります、又水酸瓦斯を以て燻蒸する場合にはこれは極く

猛毒を有して居る瓦斯でありますから、三時間も燻蒸して置けば疊の中迄滲透まして全部これを殺すことが出來ます、又卵子迄撲滅することが出來るのであります、それで室内の瓦斯燻蒸法としてはどうも日本の構造の家屋でありますと外から目張をして燻蒸を行ふことは出來ないから、「シャウコー」に酒精液を調合してこれを撲滅し、又疊のやうなものはこれを疊の入る位の箱を拵らへて、其中へ疊を入るだけ入れて瓦斯を發生させて殺すやうにするのが宜いのであります、此南京蟲は食を攝ると能く數月の間血液を吸收しなくとも生活して居る蟲でありますから、餘程これは氣をつけなければならぬのであります、私共の如く東京に家がなくして借家住をして居る者は餘程南京蟲が居るか居らぬかと云ふことを確かめなければならぬ、もう此家は三月も空いて居るのだから南京蟲が居つた所で死んで仕舞つて居るだらうからと云ふやうな想像で入りますと非常に飢えて居る南京蟲が襲來することが發生したのでありまして、赤坂の方の或る友人の家の隣りには人が轉宅して入ると直ぐ荷を片付て出て行く、又二三日經つと轉宅して來て翌日になると又出て行く、又一週間位經つと轉宅して來て直ぐ出て行く、それで此家はお化け屋敷かと云ふ風に餘程疑を挾んだやうでありますが、よく調べて見ると南京蟲が多く發生して居つて三月位絶食して居つたのでありますから人が入つて來ると夜る寢て居る間に恐ろしく襲來する、これに堪へられずして一晩で逃げて行つたと云ふ例があります、又南京蟲は非常に繁殖力が盛んでありますが、昨年も或る所に旅行をして居ります途中に南京蟲が發生して其數三百萬と云ふて居る、速にその驅除法を示してよこせと云ふて來た所がありました、それから行つて見たら中々三百萬や四百萬どころの南京蟲ではなかつたのであります、丁度本日午前に其處へ行きまして、もう居ないか知らんと思つて居つた所がまだ多少殘つて居るやうでありましてこゝに生きたのを捕へて來たのであります、昨年自

分の驅除法を書いて送りましたのは實は旅行先でありましたから脇の驅除法を勵行したものと見えまして、行つた時には後の祭りで二度の手數を掛けることになるから先づ此儘で本年は過さうと云ふ風でやつた所が、本日來て見て呉れと云ふので午前中に行つて見ましたが中々澤山發生して居ります、それは先刻申上げたやうに除蟲菊粉を散布したり、或は「イントール」と云ふやうなものを注射したと云ふのでどうも效力が不十分ではなからうかと思つて居りましたが、果せるかな十分死滅して居らぬので本年も餘程盛んに喰はれて居るやうであります、それで「ナフタリン」と云ふものを澤山散布して蟲の殖えぬやうにして居りますが、「ナフタリン」は元來總ての昆蟲に對して殺蟲劑ではないのでありまして、これは豫防劑であるから「ナフタリン」には直ぐ蟲が馴れると云ふことになりまして、南京蟲が多く發生したやうな場合に「ナフタリン」をそこへ散いた所で餘り效力はないのであります、その「ナフタリン」が蟲に馴れると云ふのはどう云ふのかと云ひますと酒飲と云ふ害蟲が酒を飲みますと始めは五勺位飲んで非常に酒に醉ふたと云ふて居るものが、段々とこれに飲馴れると一合飲み一合五勺、二合、三合と飲んでも平氣な顔をして居るやうになる、「ナフタリン」に馴れると云ふことはこれと同じ譯でありますから、丁度南京蟲が酒を澤山飲まして貰つて到頭それに馴れて仕舞ふと一向「ナフタリン」に辟易しない、寧ろ「ナフタリン」を好くやうになるか知らぬ、それで「ナフタリン」は斯う云ふことに用ゐては餘り效用の少ないものであると云ふことを御承知になりたいのであります。

次は油蟲であります、茶羽根油蟲と云ふて長さが四分か五分位ゐの茶色した油蟲が多く出て來ることがあります、又一寸位ゐのものは黑油蟲、大油蟲と云ふのがありまして、二十四種類位ゐある蟲であります、されば前の南京蟲とは密接な關係を有つて居りますから、此蟲の御話しをするのであります、普通

の家にありますと此蜚蠊と云ふのは先づ害蟲であります、先刻申したやうに御櫃の蓋でも開けて中に入つて御飯を食べたり、或は御菜の殘りがあると其處へ澤山集つて來て食べたり、其他何んでも糊氣のある著物を嚙んだり、床に掛けてある掛物の後ろに行つて糊の付いた所をバリ〳〵嚙つて居る、殊に鎌倉邊に別莊を有つてる方々が非常にこれに御困りになつて居らるゝやうであります、この黑蜚蠊が澤山發生して居りまして良い掛け物を別莊に持つて行つて掛けて置くと何時の間にか穴があく、どうして穴があくかと云ふと一寸二、三分もあるやうな蜚蠊が暗い所に居つてかむ、さう云ふ害をする所の蟲であります、南京蟲と密接の關係を有つて居ると云ふのはどう云ふ所かと云ひますと、南京蟲が多く發生して居る處にはこの蜚蠊を盛に發生させると蜚蠊が南京蟲を捕へて食べるのであります、さう云ふ時には蜚蠊は益蟲となつて來るのであります、それでこの總ての驅除法にしても自然的の驅除に俟つのが必要であります、先刻益蟲の保護と云ふ事は最も必要であると申しましたがこの蜚蠊が澤山發生して傍に食物がないやうにして置けば南京蟲が出て來るのを食べ捕へては食べ、終には全滅するやうになります、其時に蜚蠊は非常に益蟲となるのでありますが、多くの場合に於ては先刻申したやうに最もひどい害蟲であります、これは暗闇になつてから出て來る蟲でありますが、皆さん御存知の通り夏の夜燈火の下に居りますと時々戸惑ひしてウロ〳〵出て來ることがあります、それで此蟲が食物を食ふ時にはどう云ふ風にして食ふかと云ふと、暗い時に食物の周圍に集り、又食物の上に乘つたりして恐ろしく澤山寄つて來て貪食するのでありますから少い食物などは全部食べて仕まひまして跡の形もないやうにして置く、それのみならず蜚蠊が食物の上に遠慮なく糞をするのであります、蜚蠊の糞は誠に厭な臭がしまして、どうも御飯の上などでも上られたならば直に上側を一通り取つて捨てなければならぬと云ふ風になりま

す、先づこの蜚蠊は特別な場合ならば繁殖をさせるも宜いが、どうかこれが繁殖しましたならば直に全滅するやうにしなければならぬ、のみならず餘所から飛んで來たやうなことがあつてもこれを見のがしにせぬやうにしなければならね、これの多く發生する處はどう云ふ場所であるかと云ふに先づ御勝手の竈の附近、それから火鉢の中、さう云ふ暖かい所に好んで發生するものであります、それでこの蟲が一番多く發生しますのは蕎麥屋のやうな所は多く發生するものであります、旅人宿とか魚屋、乾物屋などに隨分發生します、普通の家でも中々これは發生します、古來から此油蟲が非常に發生すればするほど宜いのであると云ふ迷信を持つて居るものもあります、何故さう云ふことを言ふのかその理由は分りませぬが、油蟲が發生しなければ身上がよくならぬ、油蟲が發生せぬ間は何時までも貧乏して居るのである、かう云ふことを申しますが決してさうでない、さう云ふ迷信には心を傾けずしてどうしてもこれは驅除するやうにして戴きたいと思ふて居ります、その驅除はどうするかと云ひますと、これに對しては一番除蟲菊粉がよい、これは護謨毬でこんなものを簡單に拵へたのですが、自分は散粉器と名付けて居ります、この中に除蟲菊粉を入れて火鉢の中及び竈の隙間のある處その他油蟲が居る所にこれを斯うやりますと粉が霧を吹くやうに出て來まして、この壓力を以て少々の隙間は奥まで粉が這入つてゆきまして、苟も除蟲菊粉が少しでも油蟲の身體につきますれば蟲は居たゝまらずして皆潜伏所から出て逃げやうとする間に身體が麻痺してたほれるのであります、この除蟲菊粉と云ふものはよほど油蟲には效力のあるものでありますから、油蟲の發生して居る處へ散布なすつたらよろしからうと思ひます。

次は犬の蚤の事を申ます、大分昨今は犬の流行を申しますが外國の犬が流行して犬の共進會などでも價の非常に高い犬が居るやうでありますが、この犬には澤山蚤が發生いたします、犬に發生する所の蚤は

これは人體の血液を吸收するのとは全く別物でありまして、形はよく似て居りますけれ共違ふのであります、その蚤は犬の身體に卵子を產付けますけれども毛に固着する譯ではないのでありますから、犬が身體を動かす每に下にパラ／＼と落ちます、それですから犬の寢牀の敷物、即ち藁などは折々取替へてやる必要があります、同時に犬の身體についてる所の蚤は除虫菊粉をすり込んでやる、若くは除蟲菊粉の水溶液を塗つてやると云ふやうにして驅除するのがよろしいのであります。

次は小鳥の羽虱でありますが、小鳥も聲を樂しむが爲に大分方々に飼はれて居るやうでありますが、その小鳥の雛を育てる時分に非常に困りますのは細かい羽虱が出來ます、その羽虱はどうして驅除してやつたらよいか、小鳥を手に捉へて取つてやつては小鳥が弱つていけませぬから、其時には茴香末と云ふ藥がありますから、それを耳搔に一杯位ゐ入れてやるとその茴香末の氣が蒸發する爲に皆羽虱が撲滅することが出來るのであります。

次は鷄であります、鷄も段々と家庭に養はれて居やうであります、殊に上流の家庭には尾の長い鷄が居ります、普通は詰り採卵、或は採肉其他又其美を樂しむと云ふので段々鷄が飼はれて居るやうであります、この鷄の羽虱はどうして捕るか、鷄の羽虱は人間に對して餘り關係はないかと云ふに、鷄の小屋が人の住んで居る室に接近した所に設けてありますと、鷄の羽虱が段々傳つて夜人の寢牀へ來て血液を吸收して又夜が明けると皆歸つて行くと云ふ憂がありますから、鷄小屋を設ける時は餘り人家に接近しないやうにしないと夜蚤にせめられるのみならず、鷄の羽虱にまで襲はれる事がありますから、これは注意して置く必要があります、鷄の羽虱を驅除するにはどうするかと云ふに、鷄の砂水を浴びる箱の中に今の茴香末を入れて砂にかきませて置きますと、鷄が羽虱がわけばわく程砂の中に入つて水を浴びます、其時に茴香末が羽根の間に入つて羽虱を全

部驅除することが出來るやうになります、今一つは二硫化炭素と云ふものがありますから、それを小さい罎に入れて「コルク」の栓をして針の尖位ゐ穴をあけて置きまして夜鷄の鳥屋の中に止木に繩をかけて吊して置きます、さうすると二硫化炭素の瓦斯が自然にポツ／＼發生して羽虱を驅除することが出來ます、詰り瓦斯燻蒸すると同じ譯になるのであります。

人の發育成長を加減し得べきか

神話などを讀で見ますると何處の國でも太古には頭に角の生えてる人や、身體が半分蛇であつたり、又手が幾本も有つたりして今日の人間とは大分容姿の異つた人が居つたやうであります、然しこれは今日でもある、頭に角の生えるもの、又指が六本あるもの、或は二人の身體が胴や脊中で連綴して居るやうなものもあり、種々樣々のものが出來まするが、何れも所謂畸形と云ふもので、畢竟昔は何でも普通の人間と異る所のあるものがそれだけ神樣に近いやうに思はれたものと見えます、現に太古の神佛の像を見ますと今日の醫學上から一種の畸形と診斷することの出來る御神體が頗る多いのであります、又身の長が一丈何尺と云ふやうな大きな人もあつたやうである、これもそれ程はなくとも今日でも時々六七尺の人間はある、さうすると直ぐ仁王樣のやうだとか電信柱などと綽名が付きます、併し兎も角も太古の人間は一般に今日の人間よりも餘程身體が大きかつたものと信じて居る人が少なくないやうに思はれる、但し人間の形態が根本的に變化することの無いやうになつて以來玆に幾年經つたものか解りません、地質學、古生物學などの研究上地の底から掘出されるものが多くなるに從つて益々極太古の人間も今日の吾々と同樣の形態をして居つたと云ふことが明かになりました、又人間の胎兒は三個月の後には

既に人間の形を具へ、後の七箇月はこの形の細かい所の完成に費やされると云ふ胎生學上の事實もこれに一致してゐるのであります、それで人類は一種の持續定型のもの、即ち一つの型が定まつて居つて何時までも變らないものと見ても差支が無いのであります、それ故に吾々が今勝手に、自分の欲するがまゝにこの發育を加減して見やうと云ふやうなことは生物に一定の形を與へ、定つた發育成長の寸法を規定した自然の法則を攪亂するものであると思ふ人々も少なくないのは尤な次第であります、然し一心は岩をも徹すと申します通り、人間の意志と云ふものは恐ろしいものでありまして、一見出來さうもない事にも多少の道はつくものであります、人間の形態、從つてその成長發育も直接にこれを左右することは出來ませんが、淘汰法に依て最も生存に適したものを殘し、望むが如き遺傳素質を選擇して、間接に子孫の身體の性質に有力なる影響を與へることが出來るのであります。

一體理論上から申しますと、人間は、遺傳された不具畸形及び疾病、その他總て氣に合はぬ身體の形を改變し或は取除くことの出來る能力を有つてゐる筈なのであります、これは只何の位その勢力をこれに傾注するか、その意向次第であります、何處までも向上しやうと云ふ意氣込で以て、宗教の衣に覆はれてゐる迷信などに捕はれずに、益々吾々の子孫を貴いものにしやうと努むべきであります、然しながら人間の世代は徐々にその歩を移すもので決して一足飛に行くものではありません、それでも尙ほ遺傳の如何を顧みず、又もはや適應しなくなつたものゝ自然に滅亡するのを待たずに、直接に人間の發育に影響を及ばさうとする試みもあります。

最初人間が、遺傳に依て祖先から受繼いで來た所の身體の形に手をつけましたことは殆ど何れも身體の機能の上から云へば、これを惡くする方の事のみでありました、併し自然から與へられた形態に對して人間が自分の考で以て初めてこれに反抗を試みたこ

云ふことは餘程面白いことであります、それは何んな事かと云ひますと例へば亞米利加土人が頭蓋を壓平め、支那の婦人が足を畸形にし、西洋の婦人が「コルセット」で胸腹部を畸形にし、その他鼻に孔を穿るとか、耳に輪を通すとか、又刺靑をする、或は生殖に種々の不具畸形を起さしめると云ふやうなことであります。

斯様に未開の人間が自分の身體の形を變へて見やうと試みましたことは、何れも機能の上から申しますと却て惡くする方の事のみでありましたが、丁度これと反對に機能上の關係を善くしやう、改善しやうと努めますのは現今の外科及び整形術の執る道でありまして、これは發育の法則を利用するのであります、例へば餘計な指などの有るものはこれを除き、塞がるべき所が塞がらずに胎生の時のまゝで隙いて殘つて居る所などはこれを手術的に塞ぎ、手足や脊骨の曲つて居るものはこれを眞直にし、皮膚の贅物はこれを除き、缺けてゐる所は埋める、盲腸に附いて居る蟲様突起の如きも、その構造が不適當で、これが爲に屢々盲腸炎を起すやうな場合には、今日では外科的に切除して仕舞ふ、斯う云ふやうな方法で以て何れも各個人の作業能力を善くするのであります、但し人種的の人工的不具畸形も、手術的の細工も分娩に依て遺傳されるものではありません。

最近に至りましては內分泌器官と云ふものゝ研究が進んで參りまして、この方から發育作用を論ずるやうになりました。內分泌器官と申しますと、普通の臟器には輸入の道と輸出の道と二つある、然るに輸入の道だけ有つて輸出の道の無い器官があります、而して從來は如何なる用をなすものであるか分からなかつた、或は只飾の爲であらうとか、全く無用の長物であると云ふやうに思はれたものもありますが、段々研究して見ますると、單に飾の爲でもなければ、なか／＼無用の長物どころではない、無用の長物と見做して取除くと案外にも種々の餘病が起る、而かも重大な變化が身體に現はれて來る、そう

して見るとこれは矢張身體の爲に何かしら大切な働きをして居るものに相違ないと云ふので、段々研究して參りますと、此等の器官の中では身體の發育に大切な物質が造られ、それが再び血液の中に這入つて全身の完全な發育の爲に非常に重要な作用をするものであると云ふことが分かつて來たのであります。それは如何なるものかと申しますと、先づ腦の附屬物たる松菓腺、それから頸の所にある甲狀腺、それから睾丸及び卵巢と云ふやうな所謂胚種腺等でありますが、此等の器官は何れも一種の物質を血液の中に送りまして、發育の上に非常な影響を與へて居るのであります、それ故に此等の内分泌器官の影響に由ては全身の發育に著しい變化が起つて參ります、今その一例を申しますならば、彼の有名なスタイナツハ氏の實驗でありますが、スタイナツハ氏が鼠或は「モルモット」の如き動物に就きまして、雄鼠の睾丸を取除き、その代りに雌鼠の卵巢を雄鼠の體内に植付けました所が、[illegible]身體の形も大さも全く雌鼠と同樣の雄鼠になり、單に形のみならず乳房も大きくなり、實際乳を分泌し、しかのみならず子鼠を可愛がり、子鼠も亦これを追ひ慕ふと云ふ有樣で、其他の性質も全く雌鼠たる雄鼠が出來たのであります。それから又尿崩症と申しまして大變小便の多く出る病氣がありますが、この病氣の時に男子の身體の格好が無なり姿の變化を來すことがあります。此の如く病氣に由て發育の變化が起る、しかのみならず畸形は遺傳的にその種族の定型に異つたものを作ることがある、又前に申したやうに内分泌機能のある腺は、矢張時として遺傳的に普通のものに異つたものを生ずることがある、例へば巨大發育と云ふて、平均五尺二三寸位がその人種普通の身長とするのに六尺以上もあるやうな大きな人間が出來るかと思ふと、反對に侏儒といふやうな小さな人間が生まれる、而して大男の子に又大子息が生れ、一寸法師の孫に矮小娘が出來ると云ふやうなことがあります、總て此等のことを觀察致して參りますと、人間

の自然の形態と云ふものも決して絶對的に不變不易のものではないと云ふことが分かります。

要するに發育成長と云ふことは、何れの場合に於てもこれは化學的狀勢の表現であると謂ふことが出來る、通常此の如く發育すると云ふ準繩はあるけれども、此の如く發育しなければならぬと云ふ法則とては無いのであります、即ち發育は身體の化學的狀勢に左右されるものでありますから、吾々は又その化學作用の影響に由て一程度まで發育を加減することが出來る筈であります、實際「アルコール」及び「ヨード」の如き化學的藥品に依て生物の發育を多少變化せしむることが出來ます。

動物の卵に於きましては、これを分けたり著合はせたりして實驗的に巨大な動物や矮小な動物を育てることが出來ましたが、人間に於ては母體内にある間に、前に申しました甲狀腺、胸腺、松菓腺及び生殖腺等の作用に依て只間接に發育に影響を與へることが出來ようと思はれますが、將來に於ては化學的の方法に依り、又榮養の道に依て、母體内に發生した胎兒の發育に影響を及ぼさうとする問題が大に注目されるやうになつて來るであらうと思はれる、と云ふのは他の動物及び植物に於ては適當な榮養法に依て發育變化を起さすことが出來るやうになつたからであります、尤もその遺傳に就てはまだ十分研究が屆いて居りません、實際幾多の國民に於てその平均體重及び平均身長の增したことが確められましたがこれは一部分は榮養の佳良なつたことゝ生活法の改善されたことが與つて力あることゝ思はれます。

斯樣な風に人間の成長發育に影響を及ぼすべき事柄は種々ありまするが、こゝに一つ又注目すべき說があります、それはフリーデンタールと云ふ人の說でありまして、發育時期に最も高等の大腦の機能を要求することは人間の成長發育に影響を及ぼすものであると云ふのであります。

吾々の身體は初め二個の細胞が溶合ふて、非常に複雜な變化の下に漸次分かれ、段々細胞の數を增して

發育成長するのでありますが、この細胞の分かれ方を徐々にすることが出來るならば、それだけ生活の持續が長くなり人間の全體の働を增すことが出來る譯であります、それには精神上に高等の問題を與へる、さうすると普通五十歳で完成される吾々の腦はそれよりも遲く終局に達し、それだけ生活持續が延び、それだけ精神も外貌も一體に若々して居る譯であります、要するに發育及び生活持續は人間の腦髓の完成如何に由て餘程左右されるものでありまして、他の動物に於きましても矢張腦脊髓と云ふやうな所謂中樞神經系統の完成と共に成長發育が終るのであります。

今日の人間に於きましては、吾々は明かに二様の發育の型を區別することが出來ます、發育の自然の定型と致しましては先づ女子は十五歳、男子は十七歳で以て身體も精神も十分に成熟して發育は一段の終局を告げますが、文明人の發育成長の型はこれと異る所がある、これは特に高等の學校の生徒に於て見る如く、二十歳に至ても未だ發育の終局に達しないのであります、即ち幼年時代が約十年も延びた譯であります、つまり完全な發育成熟と云ふのには腦の發育成熟も含まねばなりませんが、これが殆ど十年も長くなり、從つて壽命もそれだけ延び得るものと見て宜からうと思はれる、文化の影響に由て發育成長を遂げることが長くかゝるやうになる結果、文明人に於ては每日の發育作業は少なくなり、その代に種々の事を考へ或は行ふ所の有益な生活作業が益々增して來るのであります。幼年時代に大腦の働を要することに由て成長發育が延びる、これは既に統計上に於ても文明人の平均壽命が長くなつて來たことが立證して居ります。

以上はフリーデンタール氏の意見の大要でありますが、從來この發育と云ふことに就ては餘り研究が進んで居りませんので、未だ分からぬ事が非常に多いのでありますが、兎に角吾々は人間の身體も餘程の所まで吾々の望に從つて變化せしめ得るものである

と云ふことだけは信じて宜しからうと思ひます。昔の物語などを見ますと人間が隨意に蛇になつたり、天狗になつたり自由なことを致して居りますが、それ程まで自由に發育機轉を支配することは六ケしいとしましても、餘程の所まで人間の發育を加減することが出來るのでありますから、吾々は何處までも人間を立派なものに改善し、健全に長生の出來るやうに益々高等の域に進むやうに少しづゝでも學問の力で昇つて行き度いと思ひます。

育兒

無力性小兒

文學博士ドクトル　富士川游

身體の弱い小兒は隨分少なくないものでありまして、その内には生れつき、身體の弱いものもあります、生れつきは丈夫でありましても、榮養が惡るいとか、病氣のためとか、いろ／＼の原因で、身體の弱くなつたものもあります、それから、生れつき身體の弱いといふ中にも又いろ／＼ありまして、無力性小兒（獨逸の言葉で「アステーニッシエ、キンデル」といふ）といふものも、その中の一種でありますが、これは通常の身體の弱い小兒とは違つて、家庭でも、學校でも、特別に注意せねばならぬものでありますから、次に、この種類の小兒のことを、お話致しませう。

無力性小兒といふのは、身體と精神とが無力の有樣をあらはして居るもので、無力性の姿質（Habitus）が身體にあらはれて居るのであります、姿質といふのは、平たく言へば、その小兒の身體の作りで、體格といふやうなものであります、無力性小兒ではその身體の作りが一種特異でありまして、從て、その精神も普通の小兒とは違つて居ることが著しいのであります。

小兒が生れてから一二年の間、母親の乳をのむで居るときでも、無力性小兒は、その身體の作り(姿質)が普通の小兒と違つて居ります。即ち

頭蓋部と顔面部との比例が、甚しく相違して居ること(小兒では、頭蓋部が大きく、顔面部が小さいのは普通でありますが、この比例が、甚しく普通と相違して居るのであります。)

腹部の膨隆して居ること。

鼠蹊脱腸並に臍脱腸を起し易きこと。

扁平足、翻馬足を起し易きこと。

右のやうに、無力性小兒の身體の作りは、普通の小兒と違つて居りますから、乳兒の時でも、無力性であるといふことがわかりますが、少しく生長した小兒では、身體の有様は、更に著しく人の目につくのであります。即ち

胸廓の狹く且長きこと

肋骨の小さく且曲れること

胸廓の扁平なること

肩の尖れること

腹部の膨隆せること

骨格の纖弱なること

筋肉の薄弱なること

皮下脂肪層の發育の不良なること

皮膚の色の蒼白なること

右のやうに、身體の作りが、普通の小兒と相異して、一體に纖弱であります、醫學上でこれを無力性姿質(Habitus asthenicus)と名づくるのであります。

それで、無力性小兒には、右に云つたやうな外部から見て、身體の作りが普通の小兒と相違して居るのでありますが、身體の內部の方から見れば、全身の機能が減じて居つて、神經系の刺戟性衰弱(一寸の刺戟で興奮し、すぐに又衰弱する)が著しいのであります、無力性小兒は、少しの身體の勞働でも、精神の働作でも、すぐに疲れて仕舞ひ、又少しの事で、熱が出る、これは神經系の强健で無い證據であります。氣道の加答兒に罹り易く、丁度、肺結核のやう

な様子でありますが、全體、小兒の肺結核といふものは稀なものでありますから、この場合にはよくしらべて無力性小兒であるかどうかといふことを確むることが肝要であります。無力性小兒の皮膚は蒼白で、丁度、貧血の様でありますがよく調べて見ると、血液の分量が少ないのでは無く、血液の分配が善くないために、貧血の様に見ゆるのであります。

無力性小兒は、身體の抵抗力が弱く、氣道の加答兒に侵され易いものでありますから、この種の小兒には慢性氣管枝炎の患者が多く、それから、その身體の狀態の不良を兼ねて居る場合には肺結核と間違へることが多いのであります。

無力性小兒の心臟はその働きが十分でなく、殊に早く疲れて、動悸が劇しくなつたり、呼吸が苦しくなつたりするやうなことがあります。無力性小兒が傳染病や、その外の重い病氣に罹りましたときは、常の小兒よりも心臟の働が早く惡るくなります。

無力性小兒には、神經が劇しく侵されまして、刺戟性衰弱といふ狀態が現はれます。刺戟性衰弱とはすこしのことで神經が刺戟せられて、それから直ぐに疲勞するのであります。それで、無力性小兒には、腱反射が亢進して居ること、角膜反射及び咽頭反射が缺けて居ること、顏面現象（槌か指にて顏面を打つときは顏面の筋肉が收縮する）。眼瞼のピク／＼すること、瞳孔が散大せること、羞明（明るい光線をマブシがる）、注意力を集中することが出來ぬ、少し頭を使ふと直ぐに疲勞を感ずる等の症狀がある。それに神經性消化困難の症狀が加はり、頑固の便祕と膀胱の衰弱（夜尿）とが併び起り、時としては直立性蛋白尿が起ることがあります。

無力性小兒の症狀は、大體、右に言つたやうでありますが、つゞめて言ひますと、大體、無力性小兒には次のやうな特徴があります

（イ）無力性姿質を持て居ること。
（ロ）筋肉の緊張が減弱して居ること。
（ハ）假性の貧血が存して居ること。

（三）神經系統の刺戟性衰弱が著しいこと。

無力性小兒は遺傳するものでありまして、同じ家族の小兒に幾人も無力性小兒が居ることがあります。小兒が生れてからまだ間もなく、乳を呑む時代に、早くも神經系統の異常が現はれて、榮養の法が正しい場合でも、身體の色が蒼白く、貧血のやうで、乳を呑むことが無性で、體重の增加が中止することがある。このやうな神經系統の異常がさきにあらはれて、それから無力性資質があらはれるものが多いのでありますが、この無力性資質のあらはれることの最も多いのは學齡期又は春機發動期でありまして、小兒は神經質又は神經衰弱の狀態になるのであります。

此の如き無力性小兒をば、その初期に發見するのが、治療上大切のことでありまして、その病狀が十分に備つてから後では、これを全治せしむることが甚だ難澁であります。

無力性小兒にありましては、學校の課業が、その精神を傷つけて、これまで潜伏して居つた處を露出せしめることが多くありますから。學校醫は、十分の注意を以て、この種の小兒を監視せねばならぬのであります。又家庭での學課のためにその精神及び身體を過勞せしめぬやうにすることが肝要であります。

無力性小兒を長休暇の間、山間に送り、又は海濱に送つて、養生をなさしめましても、市街に歸つて來ますと、直ぐにもとの通りになりますから、林間學校か又は村落に設立したる小兒院にこれを收容して、相當の治療を加へつゝ、勉學せしむることが適當であります。

無力性小兒をして無暗に運動せしむることは不良であります、又無力性小兒をして強て靜居せしむることも善くありませぬ、運動と安靜との適度を定めてこれを交換して施すのが祕訣であります。

兎に角、この無力性小兒は、幼稚園の小兒にも、小學校の小兒にも澤山あるでありませうから、保姆並

に敎員諸君の御注意を願ふは勿論、家庭でも特に母親たる人の御注意を願いたいのであります。

離乳に就て

醫學士　宇都野研

唯一完全の食餌

母の乳は小兒が生れると同時に、丁度その小兒の榮養に適した成分になつて居りまして、産後日を經るに從つて量も增し、その成分も日々適當に割合が變化致しまして、小兒の發育と步調を共にして何日も丁度その小兒の榮養に適した成分になつて居ります、それで母の乳が出ないとか、不足であるとか或は他の病氣等の爲に止むを得ず他の動物の乳を以て小兒を養はなければならぬ場合があります、その時には成るべく人間の乳汁に近い動物の乳、例へば驢馬とか山羊とかの乳汁を用ひ、普通は得易い爲に牛乳を應用致しますが、これも小兒の生後何週或は何個月になるか、又元來の發育榮養の狀況等を十分顧慮致しまして、適當に乳を稀釋め或は適當に砂糖を加へ成るべく母乳に似せるのを理想と致しますけれども、到底自然の母乳のやうな具合には參りません、縱令乳母に劣らぬ程好い成績を得、少しも故障なく小兒が發育すると致しましても、その面倒はなかなか容易なことではありません、且つ人工榮養の小兒は自然榮養、即ち母乳榮養の小兒に比較べますと何うしても病氣に侵され易い、而かも病氣が重くなり、又病氣に堪へる力が弱いのであります、これは人工榮養の小兒の死亡數が母乳榮養の小兒に比して著しく多いのを見ても明かなことであります、斯く如く母乳と云ふものは哺乳兒の發育上、少なくともその前半期に於きましては、到底他の食餌を以て代用することの出來ぬ唯一完全の榮養物であります。

哺乳期後の哺乳

前述の如く母乳は、哺乳兒に取ては唯一完全の榮養物で、如何なるものを以てしてもこれに優る代用品

とすることは出來ませんが、然し哺乳兒期の終りに達しても尙ほ母乳のみで榮養を續ける場合には害が起つて參ります、卽ち小兒の皮膚は蒼白くなり、皮下脂肪組織は弛緩み、神經過敏になると云ふやうな種々の症狀が起るやうになるのであります、此際試みに小兒の自然に慾するがまゝに乳汁の外の食物を少々づゝ陪食料として與へますと、右に擧げたやうな諸症狀は漸次消散なるのみならず、骨の發育に對しても好い影響があるやうに思はれるのであります、故に一定の時期に達したならば母乳の外の食物をも與へ始め、段々その囘數と量とを增し、遂には全く母乳を與へることを廢めるやうに致します、これが離乳、チバナレと云ふのであります。

離乳の準備

離乳の準備として母乳以外の食物を始めて與へる時期と、離乳を完成する時期、卽ち全く母乳から離れしめる時期とに關しましては國々に依て風習が異ります、殊に乳を全廢する時期に至ては甚しい遲速がある、然し今日小兒科醫が一般に是認して居りますのは、生後八個月乃至九個月の頃より陪食料を與へ始め、滿一個年以內に離乳を完了することであります。

陪食は生後八九個月頃より始めよと云ふ人もあり又十個月或は十一個月より始めるが宜しいと云ふ學者もあり、或は六個月又は七個月頃より始めるのが適當であると主張する學者もあり、ある野蠻人の間には小兒が生れてから十日又は一二個月位過ぎるとバナ、檳榔子などに唾液を混へて與へるやうな風習もありまして一定し難いのでありますが、今日一般に小兒科醫が最も適當と認めて居るのは八九個月頃より陪食を始める方法であります。

母乳を全廢する時期、卽ち授乳期の完了に就きましても學者に依て隨分著しい差があります、例へば十五個月以前に離乳を行ふことを戒め、成るべく二年の終まで授乳を續けよと云ふ人もあり、或は陪食を始めたならば二三週間或は數個月の間に離乳して

仕舞ふが宜しいと云ふ人もありまするが、これも矢張遲くとも滿一年までに離乳せよと主張する學者が一番多いのであります、つまり小兒の年齡が長ずるに從つて段々離乳を斷行することが困難になるからであります。

諸國を漫遊して種々の風俗を觀察した人の報告に依て見まするど、授乳の完了期は國土によりて著しい遲速があるやうであります、試みにその兩方の極端を擧げて見れば、授乳期の最も短いのはサモア島及びホツテントツトの土人でありまして、これは產後四個月で授乳を廢て仕舞ふ、又最も長い間授乳するのはエスキモー人でありまして十四年乃至十五年で初めて全く授乳を廢ると云ふことであります。

我邦に於ては今日は殆ど廢れて行はれませんが、往時から「マナノイハヒ」(魚味祝又は眞菜祝と書き、後世は食初祝、箸立、箸ぞめ、箸そろへなどゝ呼べり)と申しまして小兒に初めて食物(粒食)を含ましむる儀式がありまして、その時期は最初は數へ年三歲でありましたが、室町時代には生後百一日とし、江戶時代には百二十日としたものであります、然しこれは單に儀式に過ぎませんので此時期を以て我國の離乳に著手する時期と看做す譯には參りません、貝原益軒先生の弟子で有名な香月牛山と云ふ人がありますが、此人などの說では門齒が生えた時を以て粒食の時期に達したものと看做してゐるやうであります、一體我國では古來極めて徐々に離乳を行ふ習慣でありまして、從つて授乳期が一般に非常に長いのであります、舊日本を旅行した西洋人の報告などにも日本人の離乳期は二年乃至三年とし或は三年乃至五年、甚しきは十年と云ふて居りますが、これは實際であります。

一體陪食料として乳の傍に與へる所の澱粉の如きものは、乳汁に較べますと哺乳兒の身體の養になる成分に乏しいものでありますが、それにも拘らず、前に述べましたやうな效能のありますのは、乳汁の中には比較的微量しか無い鐵、石灰のやうな無機質が

大量の含水炭素と共に陪食料に依て豐富に供給せられる爲であらうかと思ひますが、この邊の所は未だ確かな説明がつかないのであります。

離乳には季節を考ふべき事

離乳は凡そ一定の時期に行ふべきものなることは前に申した如くでありますが、これには又季節の關係を顧みることが必要であります、例へば本邦に於ては六、七、八、九の四個月間は兎角急性の榮養障碍の起り易い時期でありますから、特別の事情のない限りは。縱令小兒が丁度離乳を始むべき時期に達しましても、これを延期する方が可い、或は牛乳を混せぬ陪食料は一日一回だけ與へて置くやうにしなければなりません、尙ほ季節の關係の外、乳兒の身體の强弱及び發育の遲速等に由ても多少離乳期を加減しなければなりませぬ。

（以下次號）

家庭衛生

胎毒と云ふ事

醫者と病人との間に言葉の意味が取違へられて互に迷惑することが隨分ありますが、胎毒と云ふ病名の如きも確かにその禍を醸す一つであります。

小兒に皮膚病が起つてなか／＼治癒しない、或は屢ゝ眼病に罹る、斯樣な場合に、その兩親は『この兒は胎毒が强いと見えまして』とか或は『これは胎毒で御坐いませうか』と醫者に尋ねる人が頗る多い、さうしますと今日の醫者、殊に若い御醫者樣は何う考へるかと云ひますと、ハハア成るほど遺傳黴毒か兩親に黴毒があつて、その爲にこの兒に胎毒が發したと云ふのである、かう考へるのであります、尤も診察をすれば果して遺傳黴毒であるか無いかは分か

りますが、兎も角も兩親の訴或は質問の言葉に從つて先づ斯う考へるのは當然であります、併しこの兩親の胎毒と云ふのは全く漢法醫の敎へた所謂胎毒で、專ら遺傳黴毒と云ふ意味ではないのでありまして、昔の醫者は小兒の病は十中八九までは胎毒の致す所と看做したものである、卽ち小兒が胎內に在る間に母親から毒を受けて、それが後に至て發するものとしたのであります、特に胎毒は熱毒が鬱して瘡を生ずるもので、熱は多く頭に集まるから頭又は面に瘡が出來るとしたのであります、所で今日の醫學上から申しますと、眞に斯樣な意味で起る所の胎毒とも云ふべきものは遺傳黴毒の外には僅かに二三の傳染病あるのみで、通常唯黴毒だけであります、故に一二歲の小兒の病氣、殊に皮膚病を悉く胎毒症と稱するのは、今日では甚だ不都合なことでありまして、漢法醫のこの胎毒と一からげに稱するものゝ中には、全く關係のない系統の異る種々の病氣が含まれて居るのでありまして、從つてその治療法もそれぞれ異る譯であります、然るに今日でも多くの胎毒信仰家は、自分で小兒の病氣を胎毒と診斷し、所謂胎毒下しと云ふやうなものを用ふる、而して往々小兒を危險に陷入れるものがあります。それから又胎毒は身體の內に潛んでゐる毒が表に發するのであるから、その皮膚病や眼病を治療すれば再び毒が體內に戾つて餘病を起すと云ふ迷信を懷いて、小兒の病氣を打棄て置くものがあります、これは昔の何も分からぬ時代の醫學說でありまして、今日に於ては全く理由の無いことであります。治して惡い病氣などと云ふものが有る筈がない、總ての病氣は出來得るだけ速に治療を加へなければなりません、殊に小兒の病氣はさうでありますが、就中小兒の皮膚病は慢性になれば非常に頑固で治癒し難くなるもので、さうなれば往々腎臟病などの起つて來ることもありますから、迷信に捕はれず、成るべく早く治療を施すことが必要であります、今日の世の中になつて未だ大多數の人がこの胎毒と云ふ大昔の空想的醫學の迷

信に捕はれて、愚にもつかぬ事を考へ、不合理な無法の治療を企て、或は小兒の病氣を打棄てゝ重症に陷れ平氣で居るのは餘り情ない文明國の有樣で、實際その害決して尠なくないのでありますから、これからの親達は胎毒說などに迷ふことなく、小兒の病氣に際しては速に醫師の診察を受け、十分適切の治療を加へらるゝやうに希望するのであります。

消毒法の應用（承前）

四　藁布團其他の消毒法

傳染病患者の用ゐた夜具布團、寢衣其他の衣類は煮沸消毒を施してもよし或は三十三倍（三プロセント」の鹽類を加へた石炭酸水中に二十四時間浸けて置くか、二十倍（五プロセント）のリゾール水の中に浸けて置くか、或はコッホ式消毒釜の中に入れて消毒なさい。

藁布團を消毒するには、蒸汽消毒釜にて消毒なさい、夫れから毛皮だの革類、靴或は護謨の枕の如きは蒸汽消毒が出來ないから石炭酸水に浸したブラシで力一杯にお洗ひなさい。

五　車の消毒法と食器の消毒法

人力車とか或は荷車の類は石炭酸水で洗つて消毒なさい、又人力車に傳染病患者を乘せた場合には膝かけとか或は敷いた布團類は消毒釜に入れて蒸汽消毒をします。

食器類を消毒するには

熱湯で煮沸して後使用すれば別に危險はありません。

六　患者の糞便消毒法

腸窒扶斯とか、赤痢とか、虎列剌の如き傳染病患者の大便を消毒するには

最初便器の中へ六十瓦の石灰乳か、左もなければ二百瓦の石灰水を入れて、それから患者の使用に供します、さうしていよ〳〵患者が排便を終つたら、今度は二十瓦の石灰乳か、或は又百瓦の石灰水を加へ

て少くも二時間は其まゝにして置きます、二時間經過した頃には此大便は消毒が出來て居ます。

未だ此外に消毒に使用する藥があります、それはコロール石灰を用ひます、けれどもコロール石灰は石灰乳よりも高價です、其代り石灰乳よりも效力が强いから從て早く働きます。

故にコロール石灰を石灰乳の分量で消毒すれば、僅半時間で消毒の出來る程殺菌力が强いのです

若し又、

十五瓦のコロール石灰乳を便器に入れ置き、患者が用便を畢つた後、三十瓦のコロール石灰乳を加へて其儘置くと一時間位で病原菌は撲滅され安全になります。

七　家庭にて心得べき糞便消毒法

便所の中の糞便を消毒するには、其家族の人數によつて計算を立てる事が出來る。

即ち一人に付一日二十瓦乃至三十瓦の石灰乳を要します、人數が多ければ多い丈け此割合で石灰乳を增量します、若し又た粗製の加硫酸石炭酸水であらば一人に付き一日五十瓦乃至六十瓦を要する、然れども之れは酸類を含んで居ますから、物質によつては腐敗を釀すの恐れある故、先づ便所の消毒でなくば使用は出來ないのです。

便所の金隱しの如きものに病毒の附著したものは、三十三倍(三プロセント)の石炭酸水で丁寧に拭くのです。

傳染病患者の糞便は勿論の事、赤痢、腸窒扶斯、虎列剌等の傳染病が流行する際には、病院の便所或は停車場の便所其他學校、料理店、旅館等の便所の壺は石灰乳で消毒して置く事が必要です。

傳染病患者の入浴した風呂の湯の消毒は、前にも詳しく述べた通り、コロール石灰か又は石灰乳を用ひます。

八　喀痰消毒法

肺結核患者の喀痰とか、肺ペスト患者の喀痰、其他インフルエンザ患者、肺炎患者、實扶的利亞患者等

の喀痰には、病毒を含んで居ますから、是等の喀痰消毒は嚴重に取扱はないと危險であります。肺結核患者の喀痰を消毒するに、曹達を用ふる事は前にお咄し致して置いたから既に御承知でありませう。

即ち唾壺は五寸四方位の圓筒形の瀬戸物で、内底に洗濯曹達の粉末を薄く萬遍なく敷き、其上へ患者は痰を吐きます、痰が溜つたら痰の厚さ丈曹達の粉末を加へ、熱湯を容器の八分目程注ぎ、湯の冷める迄其儘にして置けば、夫れで喀痰の消毒は出來ると斯様に説明して置きました。

然るに尚曹達消毒の外にも、完全なる喀痰の消毒法が御座います、夫れは

六乃至八プロセントのリゾール水か、或は一千倍の加酸昇汞水を唾壺の中へ入れます、爾うすれば中の喀痰は消毒が出來て安心して取扱はれます。

肺結核でも、肺炎でも、肺ペストでも、實扶的利亞でも、インフルエンザでも、其他病毒を含んで居る喀痰の消毒は之れで完全に出來ます。

併し右のリゾール水でも、加酸昇汞水でも、喀痰の分量より必ず倍丈の量を用ひる事を記憶して置かれたい。

夫れから病院などの唾壺は瀬戸物が宜しい、患者が其中へ痰を吐けば、唾壺全部を消毒釜に入れて消毒すると、輕便で且つ安全なる消毒が出來ます。

家庭でも或は病院でも學校、旅館其他孰れの場所でも、唾壺は必ず蓋をして置くべき事です。

蠅などは兎角斯ういふ不潔な物へは群がるものであるから、若し痰壺の蓋が仕て無かつたら、蠅は此危險なる病毒を含んで居る痰の上に飛んで來て之れを舐めたり、足へ痰を附着たりして飛び去ります、此の蠅には最早危險な病毒が附着して居ます、處が其蠅は更に遠慮なく再び他へ往つて群ります、爾うして病毒を移して往きます。

蠅は實に斯の如き病毒傳播の媒介をしますから、油斷は出來ません、故に唾壺の如きものは、必ず蓋を

備へて患者が痰を吐いたら、直ぐに蓋を仕て、蠅が來ても。此恐るべき喀痰に接する事の出來ぬ樣に設備しなければならぬ。

唾壺の蓋の取放しは病毒傳播の機會となる事を忘れぬやうにされたいものです。

九　恢復期患者の入浴法

傳染病に罹つたものが、愈々全快して健康人に接近する場合には、特に注意すべき事があります。

夫れは必ず入浴して、全身を石鹼で清潔に洗ひ、然して後に健康人に接すべき事です。

自宅で治療する患者などは、特別此事を嚴重に守るやう希望します、傳染病患者が自宅で治療すると如何に隔離して在つても、往々情實の爲めに、快復患者の身體が不潔なるにも係はらず其儘健康人と接近するやうな弊害があるから、患者の入浴が濟んで身體の清潔になつた後に非ざれば、健康人と接しない樣にされたい。

次ぎに又恢復患者の衣類の注意があります、夫れは發病當時より恢復期迄の間患者の著用せし衣類一切は必ず消毒した後でなければ、著て出てはなりません。

之れは特に小學校へ通學する兒童に向つて、親達が嚴密に注意して貰ひたい。

或る兒童が實扶的里亞に罹つたが、幸に血清療法で快復しました、處が其後發病當時著た著物で學校へ往くと其兒童と席を隣つて居た小兒が間もなく實扶的里亞に罹りました、段々調査して居ると、前に實扶的里亞を病んだ兒童の衣類が、未だ消毒して無かつたので、病原菌が之れに附著して居て、爲めに隣席の兒童に傳染したのでありました。

最初實扶的里亞に罹つた兒童は最早病氣が恢復したから既に免疫になつて居ます故、假令衣服に其病原菌が附著して居ても再發の恐れはないが、他の健康兒には遠慮會釋なく感染します。

之れは獨り實扶的里亞のみではありません、麻疹とか猩紅熱等の如き、他の傳染病に於ても此通りです

から、恢復患者の用ひた衣類は必ず消毒濟の後でなくば、着る事を堅く禁じます、左もないと病毒傳播の媒介となる恐れがあるのです。

一〇　屍體は火葬に附すべき規定

公定傳染病で死亡した者は、我日本の法律を以て、

「屍體は直に火葬に附する事」

を規定されてありますゆゑ、之れは病毒傳播の憂ひなき取扱ひ方になつて居ます。

然し八種傳染病以外の傳染病は、まだ〳〵非常に澤山あります。

一一　屍體の取扱法と湯灌廢止の事

公に定められたる傳染病以外の傳染病にて死亡した者の屍體を取扱ふにも、矢張り周到なる注意を拂はねばなりません。

先屍體を棺に納める前に、棺の底には鋸屑か或は石灰の類を厚く敷き、棺の外へは決して屍體の不潔物が漏れぬやうにするのです、尚屍體を包む布地は必ず二十倍の加酸石炭酸水に浸した布の濕氣のあるもので包まなければなりません。

斯うして屍體の口や、鼻や、肛門等の如き死後に液汁の漏れ易き處は、

二十倍の石炭酸水で濕した布で、丁寧に塞がなければならぬ。

是丈の順序は屍體取扱ひに最も必要なる條件であります。

處が茲に世の習慣として屍體の湯灌を行ひます、此事は總ての屍體に對し、習慣を改めるやうに仕たいのですが、

特に傳染病患者の屍體は、湯灌の習慣を廢止しなければなりません。

今も申す通り屍體の口だの或は鼻だの、總て死後液汁の漏れ易い處は必ず二十倍の石炭酸水に浸した布で塞ぐ程です、然るに湯灌をする時は往々此液汁を漏し易いが、漏れた液汁には即ち危險なる病毒の存在する恐れある故、湯灌をした後の消毒が不完全な爲め、却つて新しき傳染病患者を出さぬとも限り

ません。

親近の者が死者に湯灌を行ふの禮は、死別を惜しむの情ごして、其全廢を促すに忍びざる事ではあるが、之れが爲め新に病毒傳播の道を造るやうでは却つて公衆に對する不爲にもなりますから、切めて傳染病患者の屍體を湯灌する事丈けは全く廢めるやうにされたいと思ひます。

一二　檢溫器聽診器等の消毒法

屍體取扱ひのお話しは先づ之れ丈にして、次ぎに私は世人から屢々質問を受ける事柄の一つを述べたいと思ひます、夫れは

醫者の持つて居る體溫器や聽診器は、何んな病人に使用してるか知れない若し傳染病患者に用ひたものであつて、自分が直ぐ其後で診察をされ、斯んな體溫器や聽診器を用ひられたら非常に危險なものではありますまいか。

と尋ねられます、之れは素人のお方が不安の念を懷かれるのが、誠に最もなる次第です、故に醫師が傳染病患者に使用した體溫器や聽診器は、五プロセントの石炭酸水か、或は千倍の昇汞水に浸した布で能く拭取ります、斯うした後なら別段危險な事はありません。

一三　手先きの消毒法

醫師は勿論看護婦其他傳染病患者に接した人は、先づ手先きの消毒を嚴重にすべき必要があります、其時は

第一に石鹼で洗つて、次ぎにアルコールとか、石炭酸水とか或は昇汞水で消毒をします。

消毒の上から言へば之れで一向差支はないのです、然れども此方法では、

石鹼で洗つた水とか湯とか。夫れを棄てるに當りて消毒しなければなりません、何故かと申せば傳染病患者に接した手先きには、病毒が附着して居る恐れがあります、夫れを石鹼で洗ひ落したのですから、水なり湯なり其中には病原菌が死滅しないで未だ其儘存在して居ます、實に危險なものでありませんか、

夫れですから之れに十分消毒を施して棄てなければなりません。

扨斯ういふ手數がありますが、然し消毒の方法さへ轉換すれば全く此手數は省けます。

即ち先づ第一にアルコールか、石炭酸水か、或は昇汞水で手先きを消毒し、然して後に石鹼で洗へば夫で可いのです。

斯ういふ事は鳥渡した注意ですが、素人のお方は心得て置いて能い事です。

一四　消毒所建設の必要

其他消毒法に就いて公衆並に個人衛生の爲めに、各市町村に夫々適應した消毒所を設け、大きな蒸汽消毒釜とか、フォルマリン消毒釜を備へて置きたい。

斯うして一朝傳染病患者が發生した場合には、其消毒所に於て一切の消毒を施行し得るやうにしたいのです。

東京又は大阪の如きは、既に消毒所の設備はありますけれど、未だ之れとても十分設備の完全した譯ではありませんから、都市に於ては尚ほ一層完備せる消毒所を設くる事は是れ刻下の急務であります、其他公立私立の各病院には、必ず完全した大きな消毒釜を備へつけて、傳染病患者の入院した場合には患者の著た衣類など直ちに完全なる消毒の出來るやうに仕たい、東京に於ても大きな公立私立の二三の病院には、既に此設備のある處もありますが、未だ各府縣の病院には是れの缺けて居る處が多い、斯かる病院に於ては速に此設備をなすやうにしたい、之れは醫師としても當然の義務でありましやう、又公に定められたる傳染病に限らず、其外あらゆる傳染病は、何れでも必ず各自銘々に消毒の事を嚴重に實行しなければなりません。

患者の衣類寢具は申すに及ばず、其他の物品に對し、他に病毒の傳播する事は、銘々嚴重に防禦しなければならぬので、之が即ち各自消毒の注意です。

個人が各自銘々に注意すれば、之れは延いて以て公衆衛生の發達する所以となりますから、「傳染病の消毒法竝に其消毒法の應用」は何人を論せず、能く心得置く事が必要であります。



雜報

○肺結核療養所設置規模

大正四年度より同六年迄の間に於て、東京、大阪、京都、名古屋、横濱、神戸の六市に對し設置せしむべき同療養所の建築費及び調辦費の總額は東京四十萬圓、大阪二十八萬圓、京都、名古屋、横濱、神戸の四市は何れも建設費八萬圓にして、其患者收容限度は五百名、大阪三百五十名其他は各百名なるが、之に對する大正四年度以降の國庫補助額を擧ぐれば

大正四年度。東京十萬圓、大阪七萬圓、神戸二萬圓

合計十九萬圓。

大正五年度。右同斷

大正六年度。京都、横濱、名古屋各四萬圓。

合計十二萬圓。

大正七年度。東京、大阪、神戸經常費補助。

合計十九萬三千六百二十五圓。

大正七年以降は、東京、大阪、京都、名古屋、神戸、横濱六市の療養所經常費補助九萬六千八百七十五圓なりといふ。

○東京市に於ける毎日の出産と死亡

本月の萬朝報に東京市の解剖と題する記事中に、東京市内に於ける毎日の出産及び死亡數につき次の如く云へり、東京市の人口は毎日如何位殖えて、如何位減るか、殖える方が多いか、減る方が多いかと云へば、正に殖えるのが多い、大正二年の出産數は五萬二千九十二人、死亡數は三萬八千九百二人、差引一萬四千百九十人だけ殖える勘定だ、之をもつと細かくすると、一晝夜には百四十四人生れ一時間に六

人十分間に一人宛生れることになる、死亡の方は一時間に四人半、十五分間に一人宛死ぬ譯になる、又死亡の最も少い月、即ち東京の人間の最も壯健な月は十月、十一月の秋の時節で、一時間四人弱となる、出生の一番多いのは一、二、三の三月で一時間平均八人以上、一番出産の少い月が五、六、七の三月、他の月は大抵同じだ、五、六、七の三月は出生と死亡とが同率となる。

○子供の爲にしてやりたい事

本年四月大阪三越呉服店に開會せられたる第六回兒童博覽會 場 内大阪こども研究會の參考室に左の如き『社會及び家庭に於て子供の爲にしてやりたいと思ふ事』の表を掲げ、その内にて最適當なるもの一つを選びて投票せんことを乞へり。

社會に於て子供にしてやりたい事

子供遊園　　市内各所に於ける小供小公園
子供公會堂　　子供書館、子供劇場
子供本位の活動寫眞　　子供本位のお伽芝居、音樂
子供圖書館、復習所　　郊外のよき遊び場所
子供本位の祭禮年中行事を盛んにする事
神社佛閣の境内を子供の遊び場所として其の設備をする事
郊外の幼稚園、小學校　　低腦虛弱兒敎育所
勞働者幼兒預り所　　子供博覽會
電車賃半ちん　　道路に於ける子供保護法
子供と巡査との親睦　　子供公設便所
幼稚園學校の運動場開放　　織物紛變紙の改良
子供に宿題を廢止する事　　子供本位の寫眞屋
子供に漢字を敎へる事を廢し假名字もしくはローマ字にする事
子供本位の散髮屋の設備　　子供用品一切を賣る子供御用屋
駄菓子賣りの取締り　　玩具屋の改良
幼稚園の儀式を子供らしくする事　　子守敎育をする事

家庭に於て子供にしてやりたい事

子供室(娛樂室、讀書室等)　　子供庭園(屋上屋外、砂遊場等)
子供農園　　家畜愛護
家庭に於て菓子製造　　雨天の時のあそび場所
子供本位のお料理獻立　　子供を正賓の會食會、談話會
入園入學の祝を盛んにすること　　子供服の改良
子供づれの遠足　　通學用の雨具
雛祭、端午節句をしてやる事　　誕生日を祝してやる事

右投票の結果、その主なるものにつき點數順に列擧すれば左の如くなりき。

○子供遊園○子供公園○神社佛閣の境内を子供の遊び場所として設備する事○郊外の善き遊び場所○子供公會堂○子供本位の活動寫眞○子供圖書館○勞働者幼兒預り所○子供博覽會○電車賃半減○道路に於ける子供保護法○子供と巡査との親睦○子供に宿題廢止する事○漢字を廢し假名若くはローマ字を敎へる事○駄菓子賣の取締り○子守敎育をする事○子供室○雨天時の遊び場所

廣告

○婦人衛生會例會

私立大日本婦人衛生會にては例年の如く暑中久しく例會を休みたるが、去る十月三日午後一時より神田區一ツ橋通りたる共立女子職業學校の大講堂に於て初秋の例會を開けり、當日は同會總裁東伏見宮妃殿下にも御臨場あらせられ、役員、會員其他の參會者約三百餘名にて頗る盛況を呈したり、定刻に至るや　總裁宮妃殿下には濱尾副會長の御先導にて宮岡御用掛以下を隨へ會場に玉歩を運ばせらる、參會者一同最敬禮の中に御著座あり、司會の挨拶に次で講師高島平三氏登壇、『時局と心理』と云ふ演題の下に生物學竝に文化史上より人類發達の經過を說き、戰爭の心理を論じ、更に心理と衛生との關係につき種々興味ある實例を擧げて約二時間に亙り有益なる講演あり、續いて大學教授片山醫學博士は『親の飲酒と子供の變質』と題し、親の飲酒はその子孫の身體竝に精神の健康上に如何なる影響を及ぼすものなるかにつき種々の圖表を示して平易懇篤に說明せられたり、此間總裁宮妃殿下にも終始御熱心に御聽取あらせられ、會員一同の衛生思想に裨益する所多大なりしが、午後四時過閉會、殿下には暫時階下の別室にて御休憩の上御機嫌麗はしく御歸邸あらせられたり、因に當日出席の役員姓名を記すれば左の如し。

濱尾　作子	宮本　樂子	鳩山　春子
岡山として	守屋千代子	高木　鑅子
田村きよ子	山口さだ子	緒方　悅子
山本多穗子	長谷川仲子	土肥多越子
三宅　藤子	中濱　芳子	松井　正子
岡田　德子	丹波　貞子	松平　芳方

○轉居

●府下巣鴨字新田一〇四一へ	大澤とよ子
●淺草區今戸町二五へ	岩田晴子
●富山市千石町へ	飯尾輝子
●廣島市廣島病院へ	內海部一
●麴町區上二番町二十二	丹羽貫子
●本郷區曙町十六ほノ六へ	豐島[illegible]代子
●陸前國登米郡佐沼町へ	佐藤貞子
●牛込區市ケ谷田町三ノ二十一へ	島崎昭子
●麻布區鳥居坂町四へ	伊瀨信平
●赤坂區新坂町一へ	宇野きよ子

東京醫科大學小兒科主任敎授　醫學博士　弘田長閱
大阪高等醫學校長兼同病院長　醫學博士　佐多愛彥序
元大阪高等醫學校病院小兒科醫長心得　長濱宗佶著

增訂八版

小兒養育の心得

全一冊

製本美麗
正價金壹圓八拾錢
小包郵便料（書留）金拾八錢

本書は著者が多年の研究と經驗に基き現今の學理を應用し我國の風俗人情に鑑みて小兒の營養法、保護法、看護法其他小兒の發育敎養に關し日常養育者の心得べき事項は細大漏さず一々懇篤なる説明を加へ尙小兒の發育竝に健康狀態、皮膚の强壯法、急病時の取扱法、學校病等を通俗的に詳しく記述したる者なれば育兒上**父母**の座右に缺くべからざる良書なるのみならず**醫師、看護婦、產婆、保姆、敎員**等凡て直接間接に小兒と關係を有する者の必讀すべき參考書なり

賣捌所

東京市日本橋區通三丁目　丸善株式會社
大阪市東區博勞町四丁目　丸善株式會社大阪支店
京都市三條通麩屋町西入　丸善株式會社京都支店
福岡市博多上西町　丸善株式會社福岡支店

(後附の二)

醫學博士男爵　佐藤進閣下題字

水戸婦人科病院長　秋元洸一著

婦人性學

内容見本は郵券貳錢送附あれ

口菊伴洋裝美本紙數五百六十餘頁
■定價金貳圓參拾錢・特價金壹圓八拾錢
口郵稅内地金拾貳錢
■海外金參拾五錢

＝內容概目＝

第一編　性的解剖學（内外生殖器の各部に於ける性學的所見

第二編　性的生理學（男女生理上の差異●五官機と性慾●内分泌と性慾●月經論●妊娠論（胎教論・胎兒の性別）

第三編　性的衛生學（婚姻論●婦人性交論●婦人制慾論●女子手淫論

第四編　性的心理學（男女心理上の差異●愛情論●婦人特性論●婦人表情論●婦人迷信論

第五編　性的病理學（性慾と疾病（精神病・神經系病・榮養機病・血行系病・結核性病・婦人科病）●半陰陽●生殖器畸形●白帶下論

第六編　性的法醫學（婦人性的犯罪總論及各論●墮胎犯論●姦淫罪論●婦人犯罪矯正策●民事的觀察

第七編　性的形貌學（腦髓と性慾●顔面（口、歯、歯齦、眼、鼻、耳、眉毛、顴骨、額、頭等）と性慾●生殖器と女相

第八編　性的治療學（心理的治療●藥物的治療●手術的治療●理學的治療●婦人の座浴●婦人の鬱血療法●婦人麻醉法

發行所　水戸婦人病院　〔振替口座東京貳九壹九參番〕
水戸市鐵砲町【電話水戸三十九番】

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子
同 岡田徳子
同 山本多穂子
同 松平芳子
評議員 石川貞子
同 濱田捨子
同 服部繁子
同 西 竔子
同 緒方悦子
同 小川孝子
同 片山龜子
同 丹波貞子
同 田村きよ子
同 男爵夫人 南部限子
同 山口貞子
同 古市幸子
同 岸 澄子
同 三宅藤子
同 宮下咲子

同 羽田三緒子
同 高木鉐子
同 三浦敎子
同 岩下ゆか子
同 長谷川仲子
同 仁禮壽賀子
同 土肥多越子
同 岡山とし子
同 男爵夫人 加藤鈴子
同 吉武輝枝子
同 高橋孝子
同 鵜原誠子
同 中濱芳子
同 子爵夫人 松井正子
同 伯爵夫人 阿部篤子
同 菊池峯子
同 宮本槃子
同 守屋千代子

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價

一冊 定價金貳拾錢 郵稅壹錢
三冊（三ヶ月分） 前金郵稅共 金四拾五錢
十二冊（一ヶ年分） 前金郵稅共 金壹圓八拾錢

廣告料

一頁 六十二行 一行二十三字
壹頁 金五圓 半頁 金貳圓五拾錢
○特別廣告 壹頁金拾圓 半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正三年十月十七日印刷
大正三年十一月二十日發行

編輯者兼發行者 東京市本郷區根津西須賀町九番地 莊司秋次郎
印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 田中增藏
印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 杏林舍

發行所 私立大日本婦人衛生會事務所
東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地

賣捌所
東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鈴屋町 良明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店

婦人衛生雜誌第三百九十九號（大正三年）明治廿三年十二月一日（毎月一回）